

令和3年度

「マイスター・ハイスクール事業」にかかるPDCA
サイクル構築のための調査研究（伴走支援）

成果報告書

2022年3月
株式会社ソフィア

資料の説明

本報告書は、文部科学省の「マイスター・ハイスクール事業」にかかるPDCAサイクル構築のための調査研究事業の委託を受けた株式会社ソフィアが令和3年度に実施した調査研究と各指定校への伴走支援の成果を取りまとめたものです。

目次

① 伴走支援業務の目的と内容・・・P4

② 指定校の取り組み概要・・・P15

③ 伴走体制の整備・・・P27

④ 伴走支援の実績と課題・・・P35

1 /

伴走支援業務の目的と内容

マイスター・ハイスクール事業の概要と目的

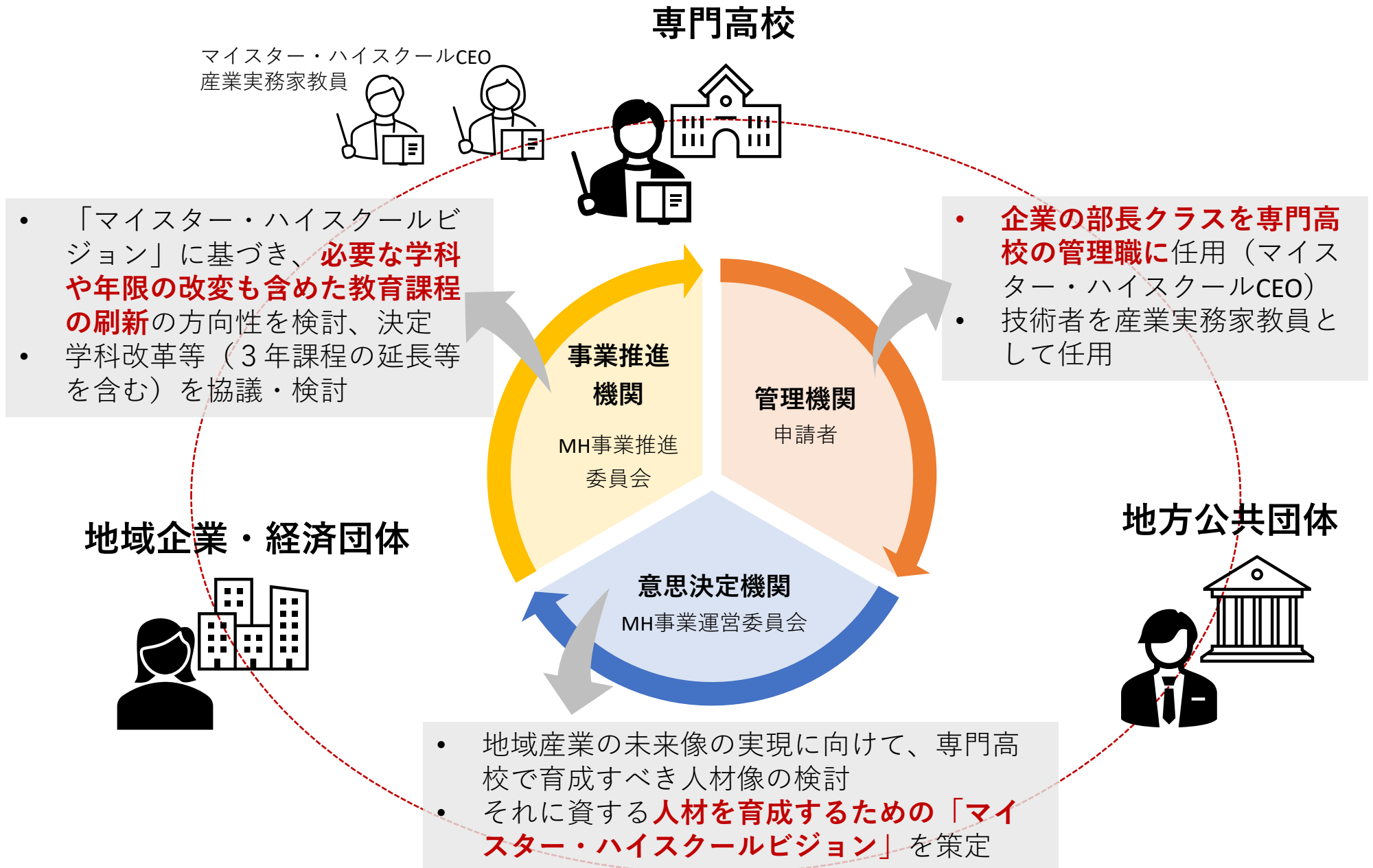
マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

人口減少の一層の進展、農業の「6次産業化」という言葉に表れるような従来の産業分類を超えた産業動態のボーダレス化の加速化等を踏まえると、デジタルトランスフォーメーション（DX）・成長産業化を進めることのできる人材育成を担う専門高校の抜本改革は、我が国全体、全国各地の持続可能成長にとって喫緊の課題であり、とりわけコロナ禍の中、世界全体が第4次産業革命に向けたIoT等のDXを進めていく上で、産業政策と高校教育の結節点である専門高校において、持続可能な産業成長・企業変革力の基盤となる人材供給を担う革新の緊急性は高まる一方である。

中央教育審議会においても、こうした背景を踏まえ、待ったなしの課題として、専門高校を含め高等学校の在り方を議論しているところであり、文部科学省としても、教育課程の開発・実施・改革に至るまで、企業・産業界と教育界が一体化し、成長産業化を図る企業の変動的取組と高校の地域職業人育成改革の同期化に向け、70年の職業系専門高校の歴史上、前例のない、産業界と一体となった職業系の専門高校教育課程・体制を一気呵成に進め、企業のダイナミックケイパビリティの確保・成長産業化を図るとともに、その人材育成機能を持続可能化する令和時代の人材育成システムを新たに構築していくものである。

本事業はこうした考え方の下、地域の職業人育成を担う専門高校における教育改革と成長産業化に向けた企業改革を同期化して進めていくという国家的な社会要請に基づき、国としてモデル事業を行うことで、全国展開に向けた各種コスト低減を図り、各地域での成功事例の創出を目指すものである。

マイスター・ハイスクール事業の概要図



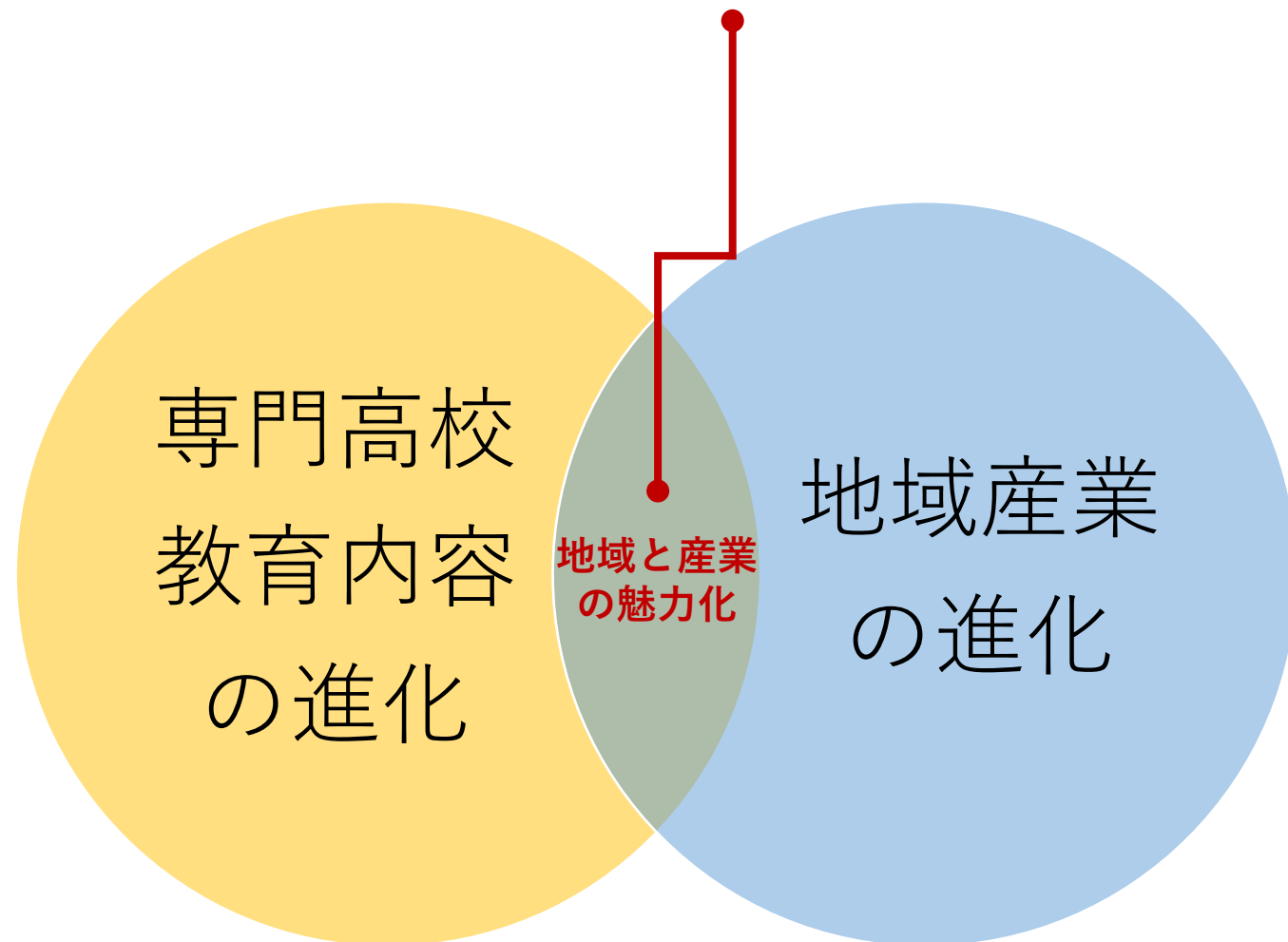
マイスター・ハイスクール事業の目指すもの

目まぐるしく産業界の構造が変化していき、それに伴って産業界から期待される人材像も変化していく中で、**専門高校（商業・農業・工業・水産など）の役割**も変わっていきます。

特に、地域産業への就職率が高い専門高校においては、その人材育成が**直接的に地域産業の進化に寄与し、地域活性化の役割**も担います。

文部科学省の本事業は、**民間から人材を専門高校に管理職相当として派遣し、産業界や自治体と一体となって、求められる人材像やビジョンを描いてカリキュラムを開発していきま**す。**地域産業の進化を担う人材育成の仕組みの刷新を図る**ことを目的としています。

産業界・教育界・行政の
継続的な協働体制の維持継続



調査研究事業（伴走支援）の目的

マイスター・ハイスクール調査研究事業（伴走支援事業）

本調査研究では、マイスター・ハイスクール指定校（産業界と一体となって最先端の職業人材育成に資する教育課程等に関する研究開発を行う専門高校）における研究開発等の取組について、指導助言や成果の検証等を行い、専門高校等と産業界等が一体となった最先端の職業人材を育成することに資する教育課程等の改善のためのフォローアップ支援及びP D C Aサイクルの構築、運用を推進するとともにこうした取組を全国に普及することを目的とする。

事業の内容

マイスター・ハイスクールの取組に対する支援体制（以下、「伴走支援チーム」という。）を構築し、マイスター・ハイスクールにおける研究開発等の各取組について、指導助言や成果の検証等を行い、専門高校等と産業界等が一体となった最先端の職業人材を育成することに資する教育課程等の改善のための指定校へのフォローアップ支援及びP D C Aサイクルの構築、運用を推進する。また、成果と課題を踏まえ、学校と産業界が一体・同期化し、地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず進化する最先端の職業人材の在り方を研究する。

調査研究事業（伴走支援）の概要

①伴走支援チームによる指導助言や成果の検証等

- 伴走支援チームは以下に示すような体制とし、「マイスター・ハイスクール事業」に指定された12事業に対し、事業の進捗を確認し、指導助言及び成果の検証等を行う。併せて、その状況について、情報共有ツール等を活用し、伴走支援チーム、各「マイスター・ハイスクール事業」指定事業、文部科学省、「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」等の関係者が常に情報を共有できるような体制を整備する。
- 定期的（月に1回程度）に伴走支援チームの全体会（以下、「全体会」という。）を開催し、情報の共有、課題の把握や成果の検証等を行う。検証結果については、各「マイスター・ハイスクール事業」指定事業にフィードバックする。なお、全体会には、文部科学省担当者も参加できることとし、必要に応じて、「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」等の指導助言を受けることも可能とする。
- 成果検証に当たっては、定量的及び定性的な成果指標を作成し、実施するものとする。その際、必要に応じて、「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」等の指導助言を受けることも可能とする。
- 年2回程度、文部科学省及び「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」に事業の進捗の報告を行い、必要に応じて指導助言を受ける場を設ける。
- 適宜、各「マイスター・ハイスクール事業」指定事業間の情報共有を行う。

調査研究事業（伴走支援）の概要

【伴走支援チームの体制】

○マネージャー（1名程度）

<想定される業務>・本事業全体の統括・管理業務を行う。・全体会の開催・運営を行う。・文部科学省及び文部科学省に置く「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」への報告を行う。

○伴走者（6名程度）

<想定される業務>・「マイスター・ハイスクール事業」に指定された事業について、伴走者1名あたり2事業程度担当し、担当する指定事業担当者等からの相談対応や指導助言等を行う。なお、少なくとも月に1回程度は、担当する指定事業担当者等と意見交換及び指導助言を行う。

・指定事業が設置するマイスター・ハイスクール事業推進委員会に参加し、意見交換及び指導助言を行う。同じく指定事業が設置するマイスター・ハイスクール運営委員会には必要に応じ参加する。・月に1回程度開催する全体会に参加し、担当する指定事業の現状・課題等について、情報共有・意見交換を行う。・文部科学省及び「マイスター・ハイスクール事業企画評価会議」への報告を行う。

○アドバイザー（10名程度）

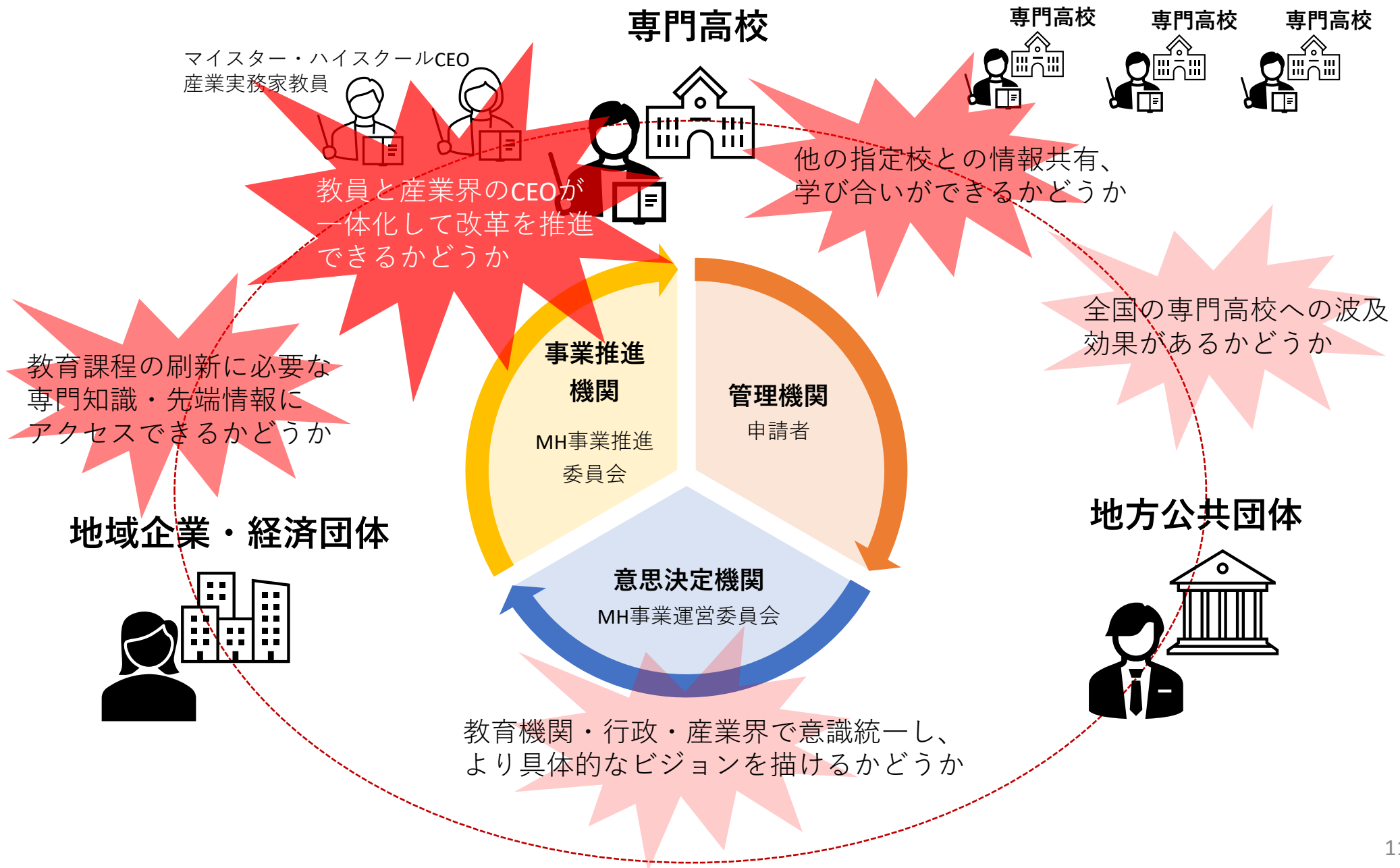
<想定される業務>・成長産業における人材育成アドバイザーとして、産業界、教育界、自治体等から専門的知見を有した者を充て、伴走者からの各地域の専門的な課題について、横断的に意見交換や指導助言を行う。・月に1回程度開催する全体会に参加し、指定事業の現状・課題等について、情報共有・意見交換を行う。・マイスター・ハイスクール事業推進委員会やマイスター・ハイスクール運営委員会に必要に応じ参加し、意見交換や指導助言を行う。

②成果の報告

・マイスター・ハイスクールをはじめ、広く社会一般に「マイスター・ハイスクール事業」の成果を公開し、好事例の普及を図るため、契約年度の2月前後を目途に、成果検証発表会（仮称）を行う。

・「マイスター・ハイスクール事業」に指定された各事業への指導助言や成果検証結果を集約し、また、それらを踏まえ、学校と産業界が一体・同期化し、地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず進化する最先端の職業人材の在り方について、報告書を作成する。

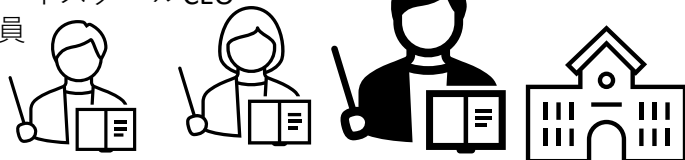
マイスター・ハイスクール事業 想定される課題



調査研究事業（伴走支援）の概要図

専門学校

マイスター・ハイスクールCEO
産業実務家教員



教職員とマイスターハイスクールCEO・実務家教員が一体となって改革を推進するために

**変革の伴走支援
（伴走者）**

教育課程の刷新に必要な次世代の産業・教育における専門知識・先端情報にアクセスするために

**専門先端知識の
ネットワーク
（アドバイザー）**

地域企業・経済団体



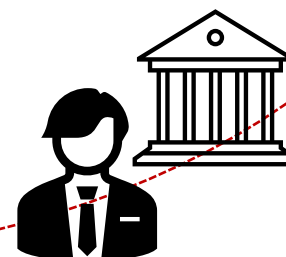
同じ課題を持った他の指定校との情報共有、学び合いをするために

**情報交換の機会
成果・事例発表**

全国の専門学校・地域産業への波及効果を出すために

**成果報告書、
コンテンツ化**

地方公共団体



調査研究事業（伴走支援）の委託内容：調査研究の概要（初年度）



伴走支援等 (目的、対象、規模、手法、実施方法等)

「マイスター・ハイスクール事業」指定事業に対する指導助言や成果検証等

目的

各指定校における教育課程の刷新に向けた産業界と教育界の連携を支援

対象、規模

全指定校12校、主な伴走対象者は校長及びマイスターCEO

手法

- 1 伴走に必要なツール、情報の取りまとめ、共有化
- 2 各指定校のヒアリング、情報収集、情報の取りまとめ
- 3 各指定校の現状分析、個別伴走スタイルの設計
- 4 伴走支援活動、全体進捗会議、アドバイザーへの相談、指定校同士の情報交換
- 5 評価会議への報告

実施体制

1名
マネージャー

7名
伴走者

10名
アドバイザー



成果の報告

「マイスター・ハイスクール事業」の成果検証発表会の実施
学校と産業界が一体し、地域の持続的な成長を牽引するための職業人材の在り方について報告書作成

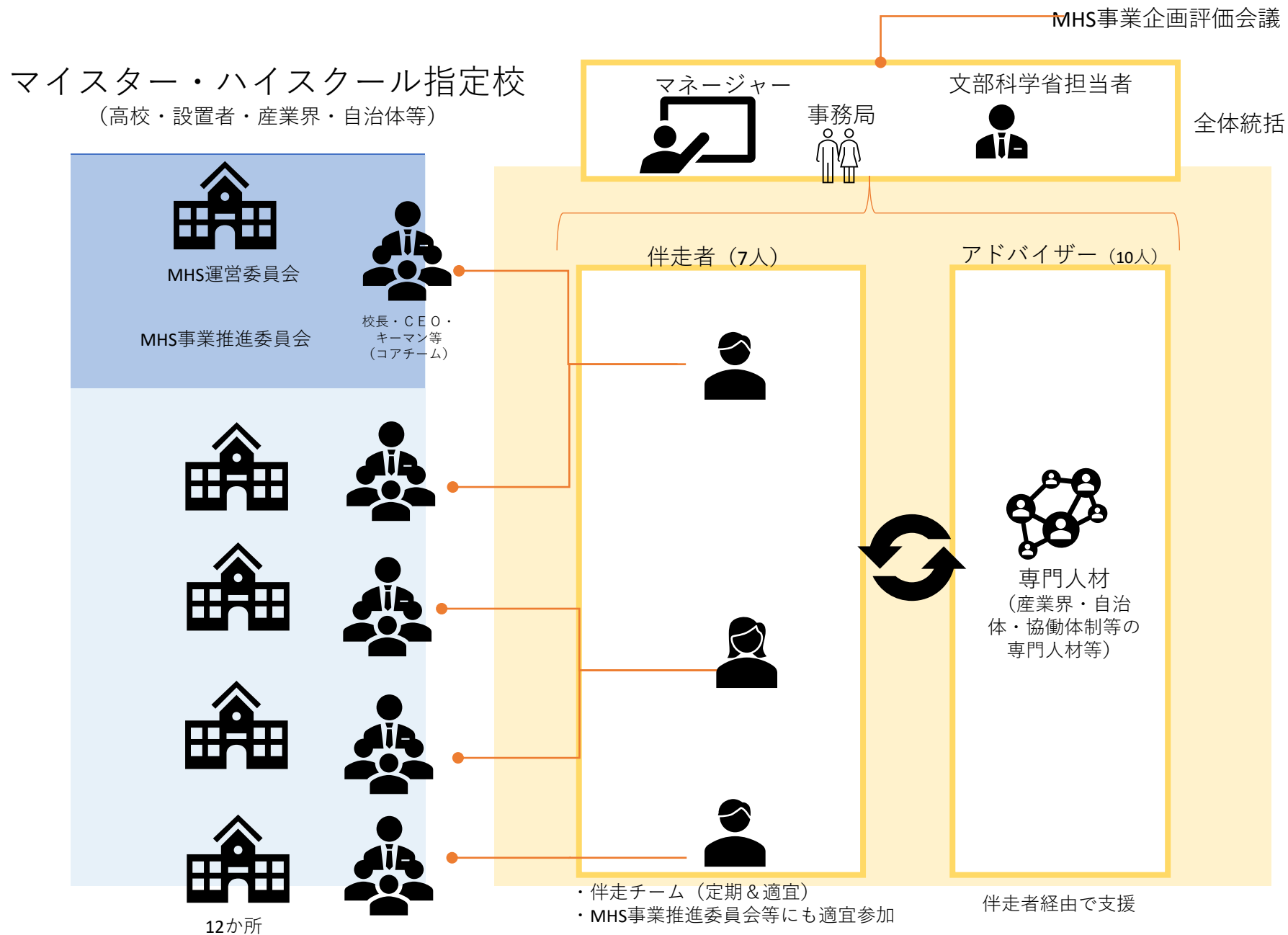
規模

全指定校及び事業の関係者への共有
*外部への公開は文部科学省と協議の上定める

手法

- 6 オンライン成果報告会
- 7 報告書の作成

調査研究事業（伴走支援）の体制図



2 /

指定校の取り組み概要

各学校の取り組み概要ー 1

学校名	代表管理機関	管理機関 (産業界)	管理機関 (自治体)	対象 学科	ビジョン	事業概要
北海道静内農業高等学校	北海道教育委員会	JAしずない	新ひだか町	農業	地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～	北海道は、日本はもとより世界の食糧基地であり、その中で、日高地方は日本最大の馬産地でもある。日高地方に位置している新ひだか町は、人口減少等により、将来、基幹産業を支える人材が不足し、地域産業が衰退することが危惧されている。そのため、地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保・育成が急務となっている。このことから、地域の産業界（JA、JRA等）や自治体（新ひだか町長や北海道全体を見渡せる知事部局（農政部）が全面支援）、学校（静内農業高校は、全国一の第一次産業集積地である北海道にあり、園芸・食品・畜産・馬産、農業を支える人材を総合的に育成している国内随一の高校）、これら三者が協働で人材育成を図り、地域創生につなげる事業とする。
福島県立小高産業技術高等学校	福島県教育委員会	南相馬ロボット産業協議会	福島県商工労働部	工業 商業	ふくしまの未来を創るテクノロジー育成事業	急速に変化する産業構造や仕事内容に、柔軟に対応できる資質・能力を身に付けたふくしまの未来を創るテクノロジストを育成する。そのため、企業・産業界と教育界が一体となって、最先端の職業人材育成システムを構築するための教育課程の編成・実施・改善及び学習プログラムを開発する。マイスター・ハイスクールCEOと産業実務家教員から指導・助言・支援等を受け、福島ロボットテストフィールドを活用し、廃炉や災害に関するロボット技術、水素エネルギー等の再生可能エネルギー技術、AIやドローンを利用した制御技術、土壌や水質等の分析技術、航空・宇宙産業に関する知識・技術、スマートシティを実現するための知識・技術を体系的な授業・実習を実践することで最先端の知識・技術を身に付けていく。
新潟県立海洋高等学校	新潟県教育委員会	株式会社 能水商店	糸魚川市	水産	未来を担う海洋・水産プロフェッショナル人材育成システムの構築～糸魚川・能生から海洋リーダーを育てるLINKプロジェクト～	○ 未来を担う海洋リーダー(Leader)を育成する教育システムを、地元糸魚川市(Itoigawa)と能生(Nou)地域の漁業・水産加工・観光・ICT等の関連企業等と、海洋(Kaiyo)高等学校が連携して、構築する。 ○ ICTを活用した設備によるチョウザメ、アカムツ(ノドグロ)などの養殖や、魚肉やキャビアなどの生産加工と商品開発、及び地元「道の駅海洋高校能水商店(仮称)」の実店舗を核としたデジタルマーケティングにおける販売実習等により、海洋・水産業のICT化と6次産業化を地域・企業等と連携して実践的に学び、事業3年目には、高付加価値商品を開発・PR・販売して「2015年から続く糸魚川市水産資源活用産学官事業の能水商店ブランド」として改めて県内外に広める。 ○ 6次産業化等と共に観光資源を活かした誘客宣伝や海洋レジャー体験サービスにも取り組み、地域の課題解決に向けた包括的な活性化プラン構想をつくるなかで、地方創生を牽引する人材を育成する。

各学校の取り組み概要ー2

学校名	代表管理機関	管理機関 (産業界)	管理機関 (自治体)	対象 学科	ビジョン	事業概要
福井県立若狭 高等学校	福井県教育 委員会	ふくい水産 振興セン ター	小浜市	水産	若狭地域の Well-being を実現するために地域水 産業の成長産業化に 貢献できる人材育成のた めの水産海洋教育カリ キュラム開発	国内外の水産業界・企業、大学、異校種、保護者、地域、海外 (以下、海洋ステークホルダーとする)と連携し以下の取り組 みを行う。①水産業発展を含む若狭地域のWell-beingを実現で きる人材育成のため目標設定・カリキュラム改善・評価を実施。 ②高大接続に向けた課題研究の強化及び、単位互換を目標とし た学校設定科目「海洋生物資源学」を開設。③地元企業や産業 実務家教員による授業からICT等を用いた最先端水産技術を学ぶ。 また課題研究等で水産関連商品開発を行い、地域水産業発展に 貢献する。④水産海洋教育先進国台湾等と海洋問題及び水産海 洋教育カリキュラムの共同研究の実施。⑤海洋キャンパスと実 習船を拠点とした小中学校への水産海洋教育の推進。
福井県立坂井 高等学校	福井県教育 委員会	株式会社 福井銀行 坂井町支店	坂井市 あわら市	農業 工商業 家庭	学科横断型DX研究に よる次世代産業人材育成 体制の構築	産官学が一体となって、次世代地域産業人材の育成体制を構築 する。GPSや5Gによるデータ通信技術などを取り入れたカリ キュラムの開発を進め、高度な先端技術を有する産業実務家 教員による実習や企業の最先端の施設設備を活用した実習を行 う。地域の課題解決をテーマにした課題研究では、地元農家と 連携し、ふるさと納税返礼品の開発・拡充を行うとともに、生 徒の企画提案をビジネス化、起業家を育成するなど、学科を横 断した協働型の探究活動を推進する。また、企業、自治体、大 学等の連携を強化し、生徒が地元に着目するしくみを構築し、 卒業生が社会での学びを学校に環流させる双方向の連携システ ムの構築にも取り組む。
山梨県立農林 高等学校	山梨県教育 委員会	甲斐市商工 会	甲斐市	農業	山梨ワイン発展のための 協働と若手技術者の育成 ～ワイン醸造学習を中心 としたワイン県やまなし の地域資源活用、地域活 性化、 新たな価値を創造する職 業人材の育成を目指して ～	山梨県立農林高等学校は、地域課題の解決を手法としたカリ キュラム開発や学科再編を視野に、令和2年度にワイン試験製造 免許を取得した。本事業により配置する外部の専門家の知見も 取り入れながら、ワインを題材とした人材育成や地域活性化に 向けた取り組みを、食品科学科を中心に、園芸系・環境系3学 科を含む全5学科で横断的に行う。6次産業化を見据え、圃場の 整備や校内に農産物販売所を建設、IoTを活用した科学的視点に 基づくブドウ栽培、産学官の連携による高品質のワイン製造、 甲斐市や商工会の企画するマーケティングやワインツーリズム への参画等をカリキュラムに組み入れる。これらの取り組みを 通じて、ブドウ栽培やワイン製造にとどまらず、地域課題の解 決やDXをもたらす人材を、産学官一体となって育成する。

各学校の取り組み概要ー3

学校名	代表管理機関	管理機関 (産業界)	管理機関 (自治体)	対象 学科	ビジョン	事業概要
滋賀県立彦根工業高等学校	滋賀県教育委員会	彦根商工会議所	彦根市	工業	変化への挑戦 (Challenge For Change) ～進取の気性を生かし 持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～	伝統技術等のビッグデータ分析などICT・デジタル教育で連携を図りながら、社会的課題を新たなチャンスととらえ、高付加価値を持つ産業へと創出できる“人財”を多様な主体の共創により育成するシステムを構想する。絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統産業等の技と心を生かし、地域産業界と彦根工業高校が一体・同期化し、郷土愛にあふれた人財育成によって地域を活性化させ、ICT&歴史都市という未来像の実現に資するもの。
岡山県立真庭高等学校	岡山県真庭市	銘建工業株式会社	岡山県教育委員会	農業 商業	地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出	・中山間地域において自然と共生しながら持続可能な地域産業と地域を担う人を育むため、産業と教育に知見を有する真庭市職員をマイスター・ハイスクールCEO、銘建工業社員を産業実務家教員として真庭高校に配置するとともに、小中連携等に取り組む郷育魅力化コーディネーターの配置やコンソーシアムの構築により地域で高校教育を共創する。 ・真庭高校において、真庭市の農産物を生産・加工・販売する6次産業化への学習を農商連携により展開するとともに、地域の農林業資源を活用した農業体験や観光プランの提案等を行うアグリビジネスプランの作成に取り組む。地元関連企業と連携し、新商品の開発・提案を行うとともに、模擬会社スタイルの学習展開の中で起業家教育を推進する。
広島県立庄原実業高等学校	広島県教育委員会	庄原商工会議所	庄原市	農業	自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想 -「環境 (SDGs)」×「アグリビジネス」→豊かな生き方・働き方-	社会の変化や次世代技術に柔軟に対応しつつ、地域資源を有機的に繋げることで地域と産業界、専門高校が一体となって、地域の未来創造に貢献できる人材を育成する。具体的には、指定校が庄原市、庄原商工会議所及び県立広島大学等と連携し、農林業が基幹産業である庄原市のアグリビジネスプレイヤー育成システムと、それを実装するための「庄原ひとづくりコンソーシアム(仮称)」を構築する。 同時に内外リソースを有効に活用した教育課程等を開発し、地域を学習フィールドとした「未来思考型PBL」を展開することで、生徒に主体性や課題発見・解決能力を身に付けさせ、ひいては地域に貢献し次世代に対応できるクリエイティブな職業人材を育む。

各学校の取り組み概要－４

学校名	代表管理機関	管理機関（産業界）	管理機関（自治体）	対象学科	ビジョン	事業概要
大分県立大分東高等学校 大分県立久住高原農業高等学校	大分県教育委員会	おおいたAIテクノロジーセンター 株式会社 ピースカンパニー 全国農業協同組合連合会 大分県本部	大分県	農業	農山村漁村を牽引する担い手確保・育成事業～農業系高校と産業界との一体・同期化による次世代担い手育成プロジェクト～	本県の農業は、高齢化などにより農業経営体数は減少する一方、経営体の法人化や生産規模の拡大が進んでいる。帰農者や新規参入による新規就農者数は増加しているが、総体的には人手不足は深刻な状況であり、特に新規学卒者は伸び悩んでいる状況にある。 魅力ある農山漁村づくりの核となる担い手を確保・育成するため、先進的な農業者等との連携は基より、先進的なスマート先端技術の開発及び活用による社会全体のイノベーションに取り組むIT企業等と連携して、農林水産高校生を対象とした実践的な授業等を行う。その取組から得られた知見を他校に還元し、県農業教育全体の魅力向上、高い志をもった大分県農業のリーダーとなる人材の確保・育成を目指す。
宮崎県立延岡工業高等学校	宮崎県教育委員会	一般財団法人宮崎県工業会	延岡市	工業	ひむか未来マイスター・ハイスクール事業 ・これからの地域産業界を担う人材育成（付加価値の高い商品開発・ビジネスモデル変革を目指す） ・予測困難な社会の変化、主体的に対応できる資質 ・地元企業にて持続可能な地域や社会の実現に貢献	IoTやAIなどのデジタル技術を活用した付加価値の高い商品開発やビジネスモデル変革を目指すこれからの地域産業界を担う高校段階での人材育成として、「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発からスタートする。延岡工業高校に設置されている各学科の実習環境を含めた教育の現状や地域産業界連携組織（宮崎県工業会県北地区部会及び延岡鉄工団地協同組合（重複除き延べ106社））の特徴を考慮し、機械科における実習内容の充実から着手する。長期的なスキームとしては、学校、地域産業界、地元自治体それぞれの立場からの当事業へのニーズ調査を行い、機械科以外での取組についても検討を行っていくこととする。

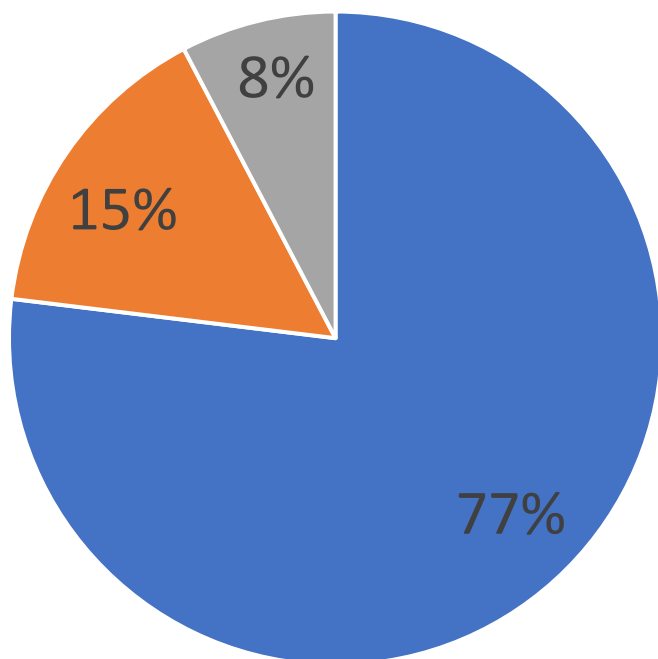
各学校の取り組み概要ー5

学校名	代表管理機関	管理機関（産業界）	管理機関（自治体）	対象学科	ビジョン	事業概要
熊本県立八代工業高等学校	熊本県教育委員会	一般財団法人 熊本県情報サービス産業協会	熊本県	工業	優れた人材や技術の「X（融合）」を追究し、DX時代の夢をつなぐ創造的エンジニアの育成	<p>本県教育委員会では、八代工業高等学校を指定校とし、情報教育の充実により人材の育成を目的とした協力協定を結ぶ（一社）熊本県情報サービス産業協会、熊本県で本事業に取り組む。</p> <p>本県産業界では、デジタル人材及び「コトづくり」にも貢献できる人材の育成が求められている中、工業高校では、DX等への対応としてデジタル技術力の育成、新たな価値を創出する発想力等の育成、県産業界等と連携・一体化した実践的な教育活動の充実等が課題となっている。また、本県産業界は専門高校生に「技術革新への対応力」、「課題解決力」、「発想力」等の資質・能力を求めており、これらの育成が必要とされている。</p> <p>そこで、指定校において本事業を実施することにより、加速度的に県全体の産業・教育界の課題解決につなげていくものとする。具体的な事業内容としては、「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づくマイスター・ハイスクールCEOのマネジメントにより、産業実務家教員による最先端デジタル技術を取り入れた授業、地域未来牽引企業など地域を代表する産業現場のスペシャリストとともに取り組む企業実習を全学科対象に実施する。また、DX社会を見据え、工業の各分野を横断的な視点で捉える力を育成し、デジタル対応産業教育設備の活用を含め、最先端のデジタル技術を基礎から応用へと深化させる。</p> <p>さらに、企業等と連携・協働した実習や課題研究等における生徒の主体的な課題解決への取組を通し、新たな価値を創出する「コトづくり」に必要な素地を涵養し、県産業界に創造的に貢献するエンジニアの育成に向けたカリキュラムの検討・刷新を行うなど本事業の実施を通して、「熊本県産業成長ビジョン」の実現を目指す産業人材育成エコシステムを構築する。</p>

CEO、産業実務家教員の所属組織

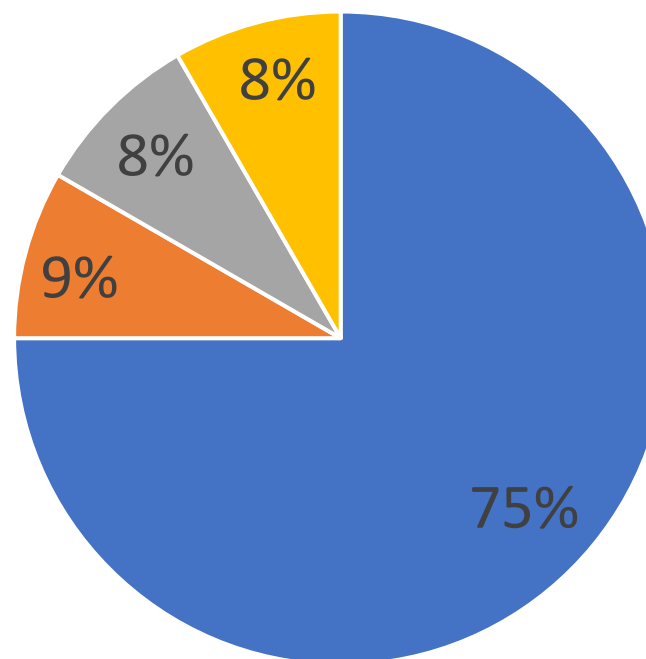
初年度のマイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員の所属をまとめています。

CEOの所属組織



■ 企業・経済団体 ■ 行政 ■ 産学官組織

産業実務家教員の所属組織



■ 企業 ■ 大学 ■ 行政 ■ 社団法人

協働体制（運営委員会、推進委員会）の参加組織

公式の協働体制は「運営委員会」「事業推進委員会」の二つとなっています。
多くの現場では「校内事業推進体制」が整備されプロジェクト推進が行われています。

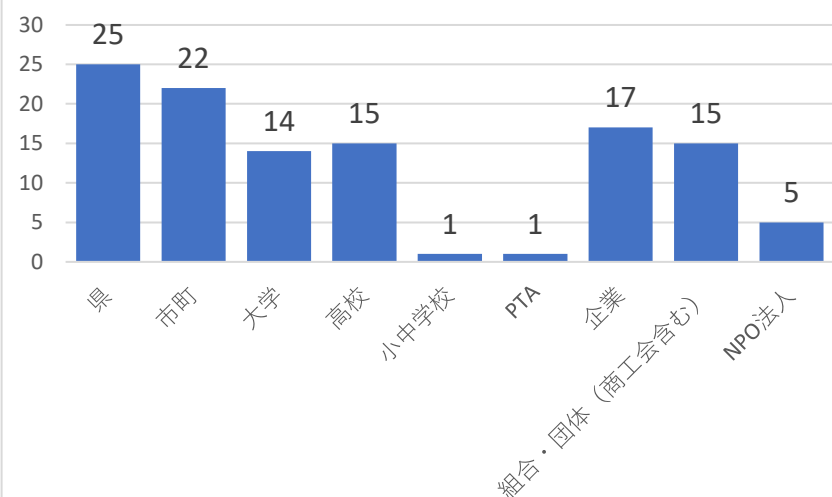
運営委員会（開催頻度年2～3回）

本事業の運営に関する全ての意思決定を行う。地方公共団体（主に基礎自治体）が掲げている、地域産業の未来像を実現するため、5年後、10年後を見据えた高等学校段階で育成すべき人物像の検討を行い、それに資する人材を育成するための実施計画としての「マイスター・ハイスクールビジョン」を策定するとともに、「マイスター・ハイスクールビジョン」の検証・改善、進捗管理を行う。本事業における数値目標・指標を設定し、事業の進行に対する評価、指導・助言を行う。

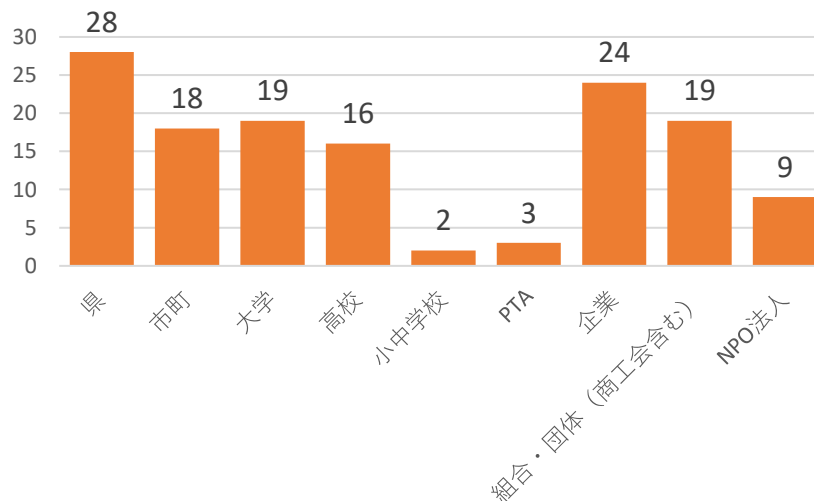
事業推進委員会（開催頻度年3～5回）

運営委員会が策定した「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき、指定校における事業の具体的な実行を行う。マイスター・ハイスクールビジョンに基づき、育成すべき人材像の育成を行うのに必要な学科や年限の改変も含めた教育課程の刷新の方向性について、検討、決定する。教育課程については、産業界の動向等も踏まえ、原則毎年度検討・刷新を行うこととする。マイスター・ハイスクールCEOを中心に、指定校における事業の推進のために必要な連携機関（高等教育機関、金融機関、産業界）との連携を進める。

運営委員会の参加組織

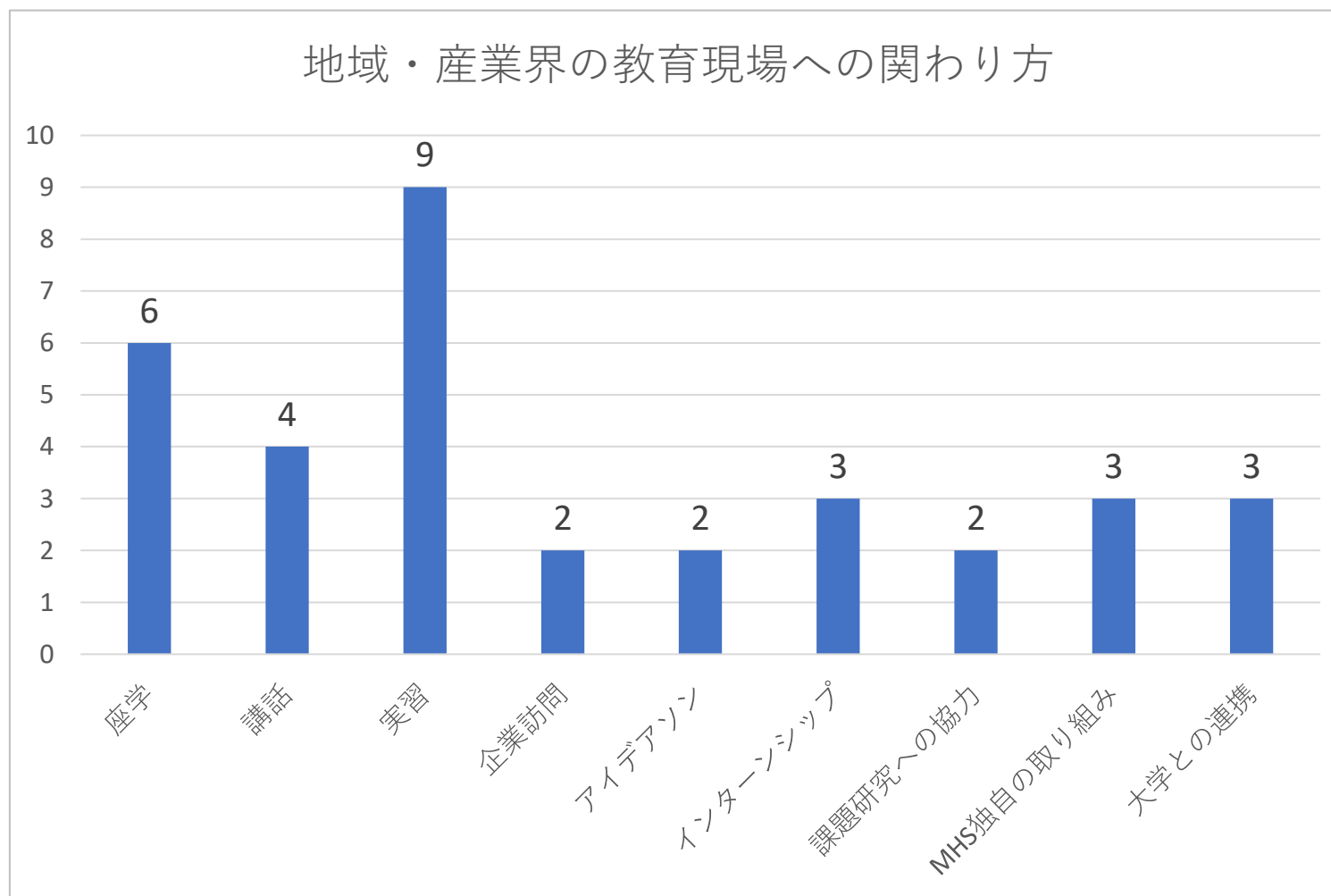


推進委員会の参加組織



地域・産業界の関わり方のまとめ、傾向

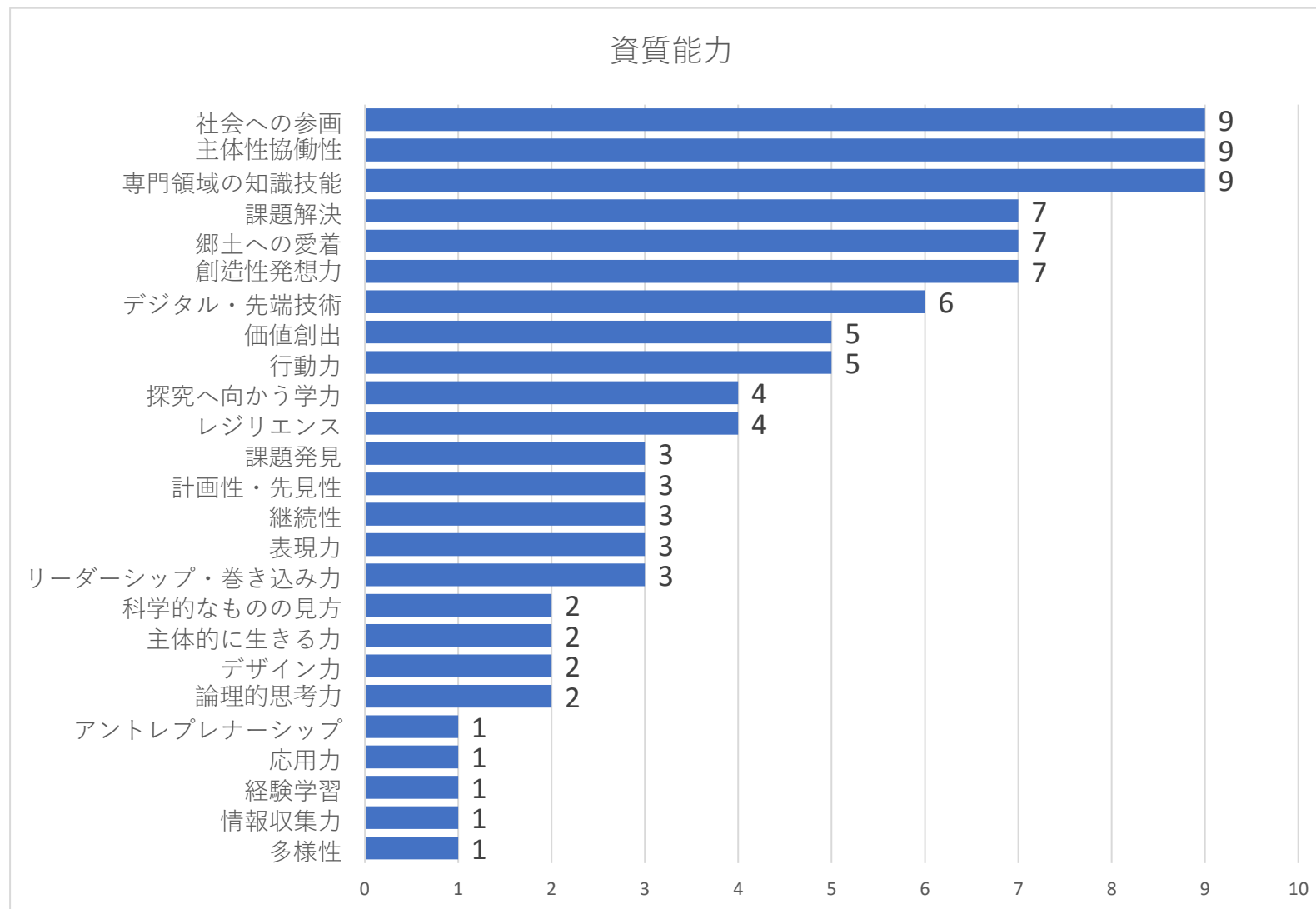
CEO・産業実務家教員に加え、管理機関（産業界・自治体）または地域企業・団体が協力して関わっている教育支援内容は以下の通りです。



産業実務家教員の活動も含む

人材育成の方向性

各指定校の育成する人材像に必要な資質能力について、ある程度共通項でカテゴライズし整理し取りまとめてみました。



普及に向けての動き

指定校が成果をもとにモデル校となり、県内ならびに他の地域にも広げていくことが求められていますが、初年度すでに検討されている内容は以下の通りです。

モデル1 工業



- ① 県の政策としての産業成長ビジョン
- ② 県教育委員会としての産業人材育成方針
- ③ 県教育委員会と商工労働部との連携協働
- ④ 指定校でのモデルづくり
- ⑤ ステークホルダー（地域産業・基礎自治体・教育現場）にとっての価値、協働体制の共通価値の創出
- ⑥ 他校との連携、成果の移転

モデル2 農業



- ① 県の政策としての産業成長ビジョン
- ② 県教育委員会としての産業人材育成方針
- ③ 指定校でのモデル、教育プログラムづくり
- ④ 農業専門塾にすべてを集約して移管
- ⑤ 県内すべての農業系高校生が同プログラムの受講

さらなる発展に向けた課題

教育課程の刷新と地域産業の進化に向けて協働を推進するために、今後必要となる要素は以下の通りと考えられます。



3

伴走体制の整備

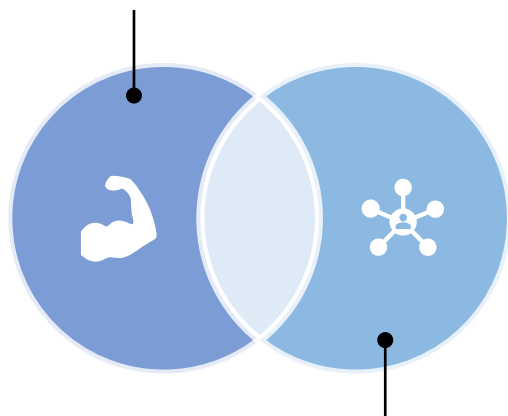
伴走チーム メンバー構成

学校現場と産業界の橋渡しとなるような人員でプロジェクトメンバーを集め伴走支援チームを組成しています。



伴走者の人選について

伴走者の条件を、産業界と教育界の双方の知見を持ち、相互のやり方・文化・考え方を行き来できるハイブリッド人材であり、学校と企業の橋渡しなどについてこれまでの実績と経験が豊富な人材としている



さらに、北海道から九州まで幅広くある指定校に対して、なるべく近隣の地域から行けるような配慮を行う



アドバイザーの人選 テーマ一覧



…産業



…教育



…行政



…地域

テーマ

キーワード



イノベーション、
人事

ビジネス、ニーズの発見、
経営マーケティング的な経験、地域企業との連携



高校改革魅力化

高校改革における県教委の役割
地域と高校を結ぶコーディネート機能の在り方



教育委員会、
農商工連携

学科横断の学び、生徒の主体性の引き出し方



デジタル全般

企業におけるDXの現状と課題、
求められる人材要件



地域連携

コミュニティスクール、コンソーシアム
などの地域と高校の協働体制づくり



高大連携・接続

高大連携・接続、学校組織開発、
資質能力の評価



公民連携による
地域創生

公民連携共創、
高校改革を核とした地域創生



循環型経済、
SDGs

企業のSDGsへの取り組みと課題、
循環型経済への取り組み



町づくり

町ぐるみでの専門高校の改革、
町・企業・学校の連携体制

伴走体制の構築 | コミュニケーション設計

伴走体制の構築し、品質基準を保つために、以下の通りコミュニケーションの設計を行っています。

伴走支援体制内部の会議体



全体会議

- 毎月定例で実施、進捗共有、課題の共有と協議の場
- プロジェクト全体の品質を担保し、PDCAによる改善に向けて伴走者、アドバイザー、事務局、文科省が出席

企画評価会議

- 事業全体の評価を行う委員会での報告と相談の場、年3回実施
- 学校の進捗状況を共有・報告し、それに対し質問や調査依頼、アドバイスを受ける

伴走者会議

- 四半期に1回程度で実施、伴走における困りごとや課題感を伴走者間で共有、相互支援の場

個別会議

- 伴走者、ならびにアドバイザーとプロジェクトマネージャーが随時開催で個別に協議する場

内部でのコミュニケーションツール



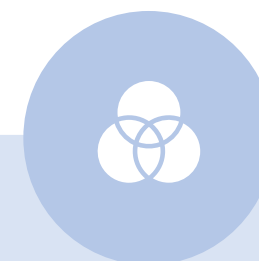
Microsoft Teams

- 伴走者、アドバイザー、事務局、文部科学省が共通で情報共有できるようコラボレーションシステムを導入

ビデオアーカイブシステム (Vimeo)

- すべての会議や勉強会を録画し、出席ができなかったメンバーに議事録と共に共有できるようクラウドシステムを導入

伴走に必要なフレームワーク



- プロジェクト運営指針
- 高校魅力化ルーブリック
- 伴走者の心構え
- 伴走の事前準備

伴走支援事業のプロジェクト運営指針

プロジェクトメンバー内でプロジェクト運営指針を共創し、目線合わせを行っています。

伴走者やアドバイザーがどのような姿勢や態度で、学校や校長/マイスター・ハイスクールCEOと接していくのか、また伴走する際に気を付けることをプロジェクト運営指針としてまとめ。

プロジェクト運営指針

目的

1. 10～20年後の地域産業を牽引する専門人材の育成
2. 学校と産業界が「これからの地域産業と人材」に当事者意識を持ち、協働できる仕組みづくり
3. 専門高校を核とした地域づくりの全国への告知、活動のきっかけづくり

スコープ

学校現場を中心に支援しつつも、目的達成に影響力を持つステークホルダーへ柔軟に働きかけていく

活動方針

1. 進捗状況やリソースに合わせ、計画性よりも実効性を重視し柔軟に進める
2. 生徒が主人公であることを念頭において、支援・助言をしていくこと
3. 産業界の関わり易さを担保しつつ、未来を見据え意見のぶつかり合いを恐れない

フレームワーク | 事業評価の枠組み

事業推進に必要な要素をメンバー内で洗い出し、マイスター・ハイスクール事業に求められるルーブリックを作成しています。

【ルーブリック】

学校の状況や状態に合わせて伴走ができるように、現在の活動内容や組織の状態をレビューすることができるルーブリックを作成。

伴走者が学校現場による自己評価を支援するためのツールとして活用。横軸は各現場で考えることを想定し、現在はチェックリストとして利用している。

高校魅力化ルーブリック（プロトタイプ版）

*スクールポリシーをマイスター・ハイスクールビジョンと育てたい人物像に置き換えてチェック

カテゴリ	項目	説明	チェック
学校経営	スクール・ポリシーの策定	●教職員をはじめとする関係者が参画し、スクール・ポリシーが策定され、継続的に確認・見直しされているか。 ●スクール・ポリシーは一貫性・整合性があり、真に重点的に取り組む内容を示す指針となっているか。	
	スクール・ポリシーの共有	●スクール・ポリシー及び目指す学校像は生徒・教職員をはじめ関係者に共有・理解・納得されているか。 ●スクール・ポリシー及びそれに基づく特色・魅力ある教育が可視化され、中学生や保護者等へ分かりやすく情報発信されているか。	
	推進環境の整備	●スクール・ポリシー及び目指す学校像の実現に向け、組織的・一体的に動ける校内体制が整備されているか。 ●スクール・ポリシーに基づき教育活動や業務内容が精選・重点化され、教職員以外の関係者も含めた役割分担や業務の適正化が図られているか。	
教育課程	カリキュラムの開発	●スクール・ポリシーに基づき育成する資質・能力が具体化・明確化され、教科等横断的な視点で体系的なカリキュラムが設計されているか。 ●スクール・ポリシーに基づくカリキュラムの実施にあたり、地域・社会の資源の活用や教育課程外の取り組みとの連携が図られているか。	
	学習者中心の教育活動	●各教科等において主体的・対話的で深い学びや、自ら問いを見いだし課題を発見・解決していく探究的な学びが行われているか。 ●生徒一人一人が自己の興味・関心等に基づき、在り方生き方を主体的に考え、多様な進路希望を選択・実現できるようになっているか。	
	生徒の主体的参画	●生徒を主語にした高校教育の推進に向け、生徒が主体的に学校運営に参加・参画する機会が確保されているか。 ●社会の創り手となる資質・能力の育成に向け、生徒が主体的に地域・社会に参加・参画する機会が確保されているか。	
協働体制	協働体制の構築	●高校と関係機関等が一体的に合意形成を図りながら、計画的・継続的に連携・協働する体制（コンソーシアム等）が構築されているか。 ●方針の承認や学校運営に関して意見を述べるだけに留まらず、具体的・実質的な協働につながる対話や合意形成が行われているか。	
	協働活動の推進	●高校と関係機関等がパートナーとして目標を共有し、計画的・継続的に多様な活動を実施できているか。 ●地域や関係機関等が学校・生徒を応援・支援する一方向的な活動に留まらず、双方向の連携・協働型の活動ができているか。	
	PDCAサイクルの確立	●学校評価において、スクール・ポリシー等に照らして活動が点検・評価され、組織的・計画的な改善が図られているか。 ●具体的な目標・指標が設定・共有され、各種データ等に基づき関係者が対話的に振り返り、改善が図られているか。	
資源確保	人材の確保	●関係機関等との連携協働を推進するコーディネート人材が配置され、効果的に支援・育成・活用されているか。 ●多様な経験や専門性を有する外部人材が十分に確保され、効果的に活用されているか。	
	資金の確保	●取組の必要性や価値・効果が可視化され、関係機関等に共有されているか。 ●行政の制度や計画に位置づけられるなど、持続的な財源・予算確保の目的が立てられているか。	
県の方針、政策との連動	スクールミッションの提示	県全体の教育価値の向上の観点から、学校のスクールミッションの基本的な方向性・考え方と本事業の関係性を提示しているかどうか。	
	制度的支援、財務的支援、人的支援	本事業の位置づけを県庁の政策と紐づけ、中長期的な取り組みや制度として設計するとともに、予算に組み込んでいるかどうか。必要になる新しい人材やスキルの抽出と育成の機会を提供しているかどうか。	
	伴走的支援	学校現場の主体性を尊重し、推進を現場に任せる姿勢で伴走しつつ、現場の困りごとや推進に向けた阻害要因を当事者意識をもって解決にむけて取り組んでいるか。	
	波及効果・知見を他の高校へ普及	学校現場の課題・取り組みを抽象化概念化し、学びや知見に変換して、県内の高校へ普及することに務めているかどうか。	

カテゴリ	項目	説明
学校経営	スクール・ポリシーの策定	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員をはじめとする関係者が参画し、スクール・ポリシーが策定され、継続的に確認・見直しされているか。 ●スクール・ポリシーは一貫性・整合性があり、真に重点的に取り組む内容を示す指針となっているか。
	スクール・ポリシーの共有	<ul style="list-style-type: none"> ●スクール・ポリシー及び目指す学校像は生徒・教職員をはじめ関係者に共有・理解・納得されているか。 ●スクール・ポリシー及びそれに基づく特色・魅力ある教育が可視化され、中学生や保護者等へ分かりやすく情報発信されているか。
	推進環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●スクール・ポリシー及び目指す学校像の実現に向け、組織的・一体的に動ける校内体制が整備されているか。 ●スクール・ポリシーに基づき教育活動や業務内容が精選・重点化され、教職員以外の関係者も含めた役割分担や業務の適正化が図られているか。
教育課程	カリキュラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ●スクール・ポリシーに基づき育成する資質・能力が具体化・明確化され、教科等横断的な視点で体系的なカリキュラムが設計されているか。 ●スクール・ポリシーに基づくカリキュラムの実施にあたり、地域・社会の資源の活用や教育課程外の取り組みとの連携が図られているか。
	学習者中心の教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科等において主体的・対話的で深い学びや、自ら問いを見だし課題を発見・解決していく探究的な学びが行われているか。 ●生徒一人一人が自己の興味・関心等に基づき、在り方生き方を主体的に考え、多様な進路希望を選択・実現できるようになっているか。
	生徒の主体的参画	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒を主語にした高校教育の推進に向け、生徒が主体的に学校運営に参加・参画する機会が確保されているか。 ●社会の創り手となる資質・能力の育成に向け、生徒が主体的に地域・社会に参加・参画する機会が確保されているか。
協働体制	協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●高校と関係機関等が一体的に合意形成を図りながら、計画的・継続的に連携・協働する体制（コンソーシアム等）が構築されているか。 ●方針の承認や学校運営に関して意見を述べるだけに留まらず、具体的・実質的な協働につながる対話や合意形成が行われているか。
	協働活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●高校と関係機関等がパートナーとして目標を共有し、計画的・継続的に多様な活動を実施できているか。 ●地域や関係機関等が学校・生徒を応援・支援する一方向的な活動に留まらず、双方向の連携・協働型の活動ができているか。
	PDCAサイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価において、スクール・ポリシー等に照らして活動が点検・評価され、組織的・計画的な改善が図られているか。 ●具体的な目標・指標が設定・共有され、各種データ等に基づき関係者が対話的に振り返り、改善が図られているか。
資源確保	人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関等との連携協働を推進するコーディネート人材が配置され、効果的に支援・育成・活用されているか。 ●多様な経験や専門性を有する外部人材が十分に確保され、効果的に活用されているか。
	資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●取組の必要性や価値・効果が可視化され、関係機関等に共有されているか。 ●行政の制度や計画に位置づけられるなど、持続的な財源・予算確保の目途が立てられているか。

県の方針、政策との連動	スクールミッションの提示	県全体の教育価値の向上の観点から、学校のスクールミッションの基本的な方向性・考え方と本事業の関係性を提示しているかどうか。
	制度的支援、財務的支援、人的支援	本事業の位置づけを県庁の政策と紐づけ、中長期的な取り組みや制度として設計するとともに、予算に組み込んでいるかどうか。必要になる新しい人材やスキルの抽出と育成の機会を提供しているかどうか。
	伴走的支援	学校現場の主体性を尊重し、推進を現場に任せる姿勢で伴走しつつ、現場の困りごとや推進に向けた阻害要因を当事者意識をもって解決にむけて取り組んでいるか。
	波及効果・知見を他の高校へ普及	学校現場の課題・取り組みを抽象化概念化し、学びや知見に変換して、県内の高校へ普及することに務めているかどうか。

フレームワーク | 伴走者の心構え

伴走者が指定校を中心に伴走する際の心構えをまとめて共有しています。

伴走の目的 (WHY)



- 10～20年後の地域産業を牽引する専門人材の育成にむけて、学校と産業界が相互に当事者意識を持ち、協働できる仕組づくりを支援すること。
- そのために学校現場を中心に、事業推進に資する「時間軸」や「方向性」に関する働きかけを行う。

伴走の姿勢 (HOW)



関係性を築くこと

問題を浮き彫りにして、解決策を検討するためのプロセスに関与していく



実効性を重視

伴走対象先の進捗やリソース状況に合わせ、計画性よりも実効性を重視し柔軟に進めていく

伴走活動 (WHAT)



校内体制



ビジョンと活動の一貫性



ステークホルダーの関係性



事業の継続性



波及・普及



フレームワーク | 伴走の事前準備

伴走者が指定校を中心に伴走する際に準備すべき項目をまとめています。

✓ 伴走対象組織への深く重層的な理解

伴走する対象者がいる組織を深く理解する
様々な観点から情報収集やヒアリングを行い
重層的に理解する

🔍 伴走対象者の見極め

複数の利害関係者や担当者がある場合、
重点的に伴走する先を明確にすることが重要となる

💬 コミュニケーション方法の設計

伴走対象者及びその組織・団体との連絡や情報共有、
会議の持ち方などを事前に設計

! 伴走者への期待値の言語化

伴走対象者が伴走者に期待することと
その理由を相互に共通認識を持てるようにしておく

🤝 伴走者の役割の事前すり合わせ

伴走者が、何について、どこまでどのように関わるのか、
ある程度の役割を事前に合意形成する

📄 伴走すべきテーマの明確化、
関係者との共有・合意形成

伴走するテーマや課題を明確にした上で、関係者間での
共有を十分に行う

🤝 伴走対象者との関係性の構築

物理的距離があり対面で行えない場合の信頼関係の構築
方法についても検討しておく

4

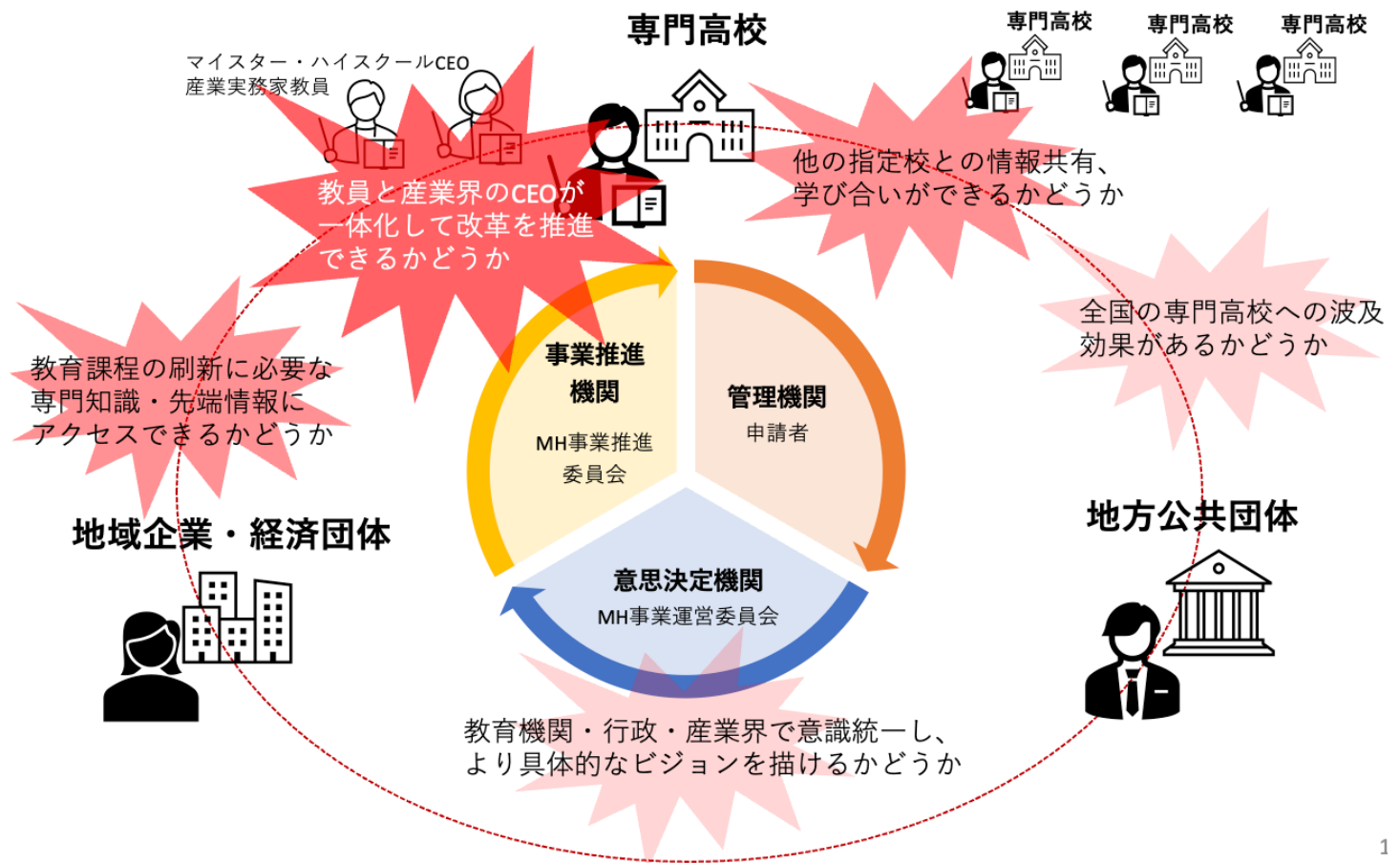
伴走支援の実績と課題

伴走の必要性に関する当初の想定との差異

想定通りに伴走支援を提供出来た指定校もあるが、想定よりも先に進んでいた指定校、想定よりも進んでいない指定校もあり、個別状況に合わせた伴走が必要となっています。

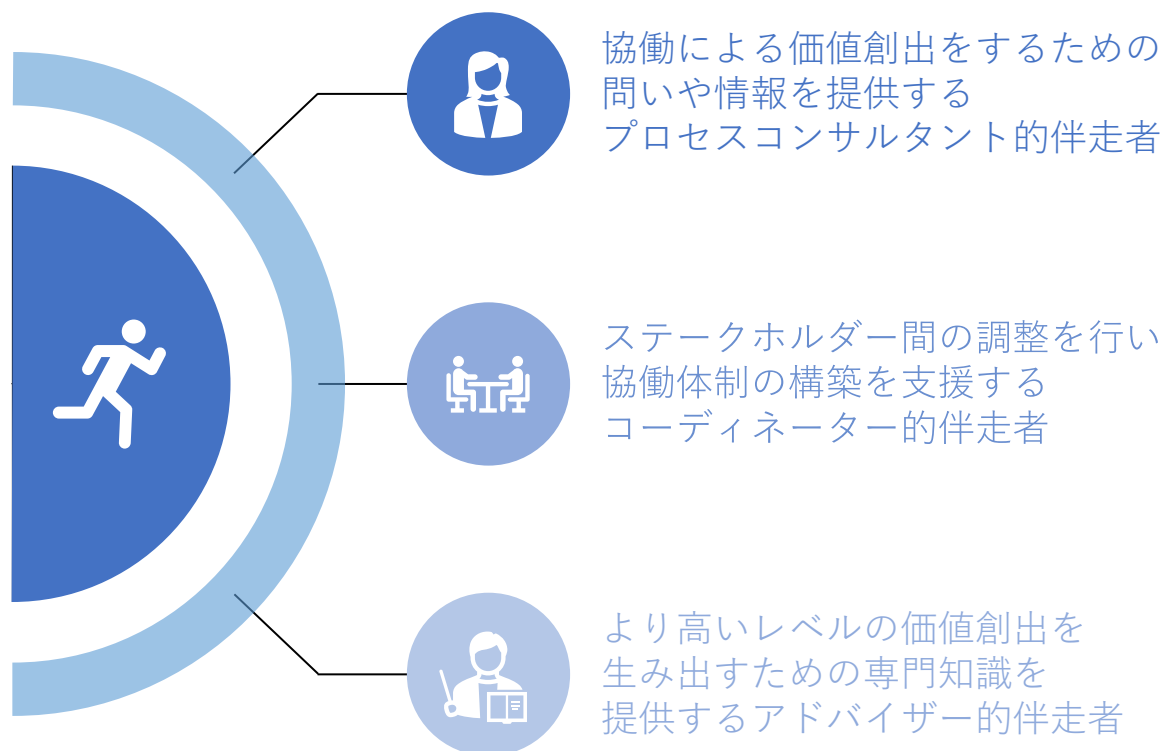
学校の状況3つのパターン

- ステークホルダー間の関係性はある程度構築できているが、より強固な協働と価値創出に課題感がある学校
- ステークホルダー間の関係性が薄く、相互に手を握れていない状態の学校
- すでに地域産業との協働が進んでおり、地域との関係資本がすでに存在する学校



学校の状況に合わせた伴走のタイプ

伴走の際には、現場の状況に合わせて活動するために、以下の3つの伴走の役割を駆使することが必要となります。



その他、伴走の状況を変化させる要素



学校現場だけでなく、行政（県、市）
のコミットメントがあるかどうか



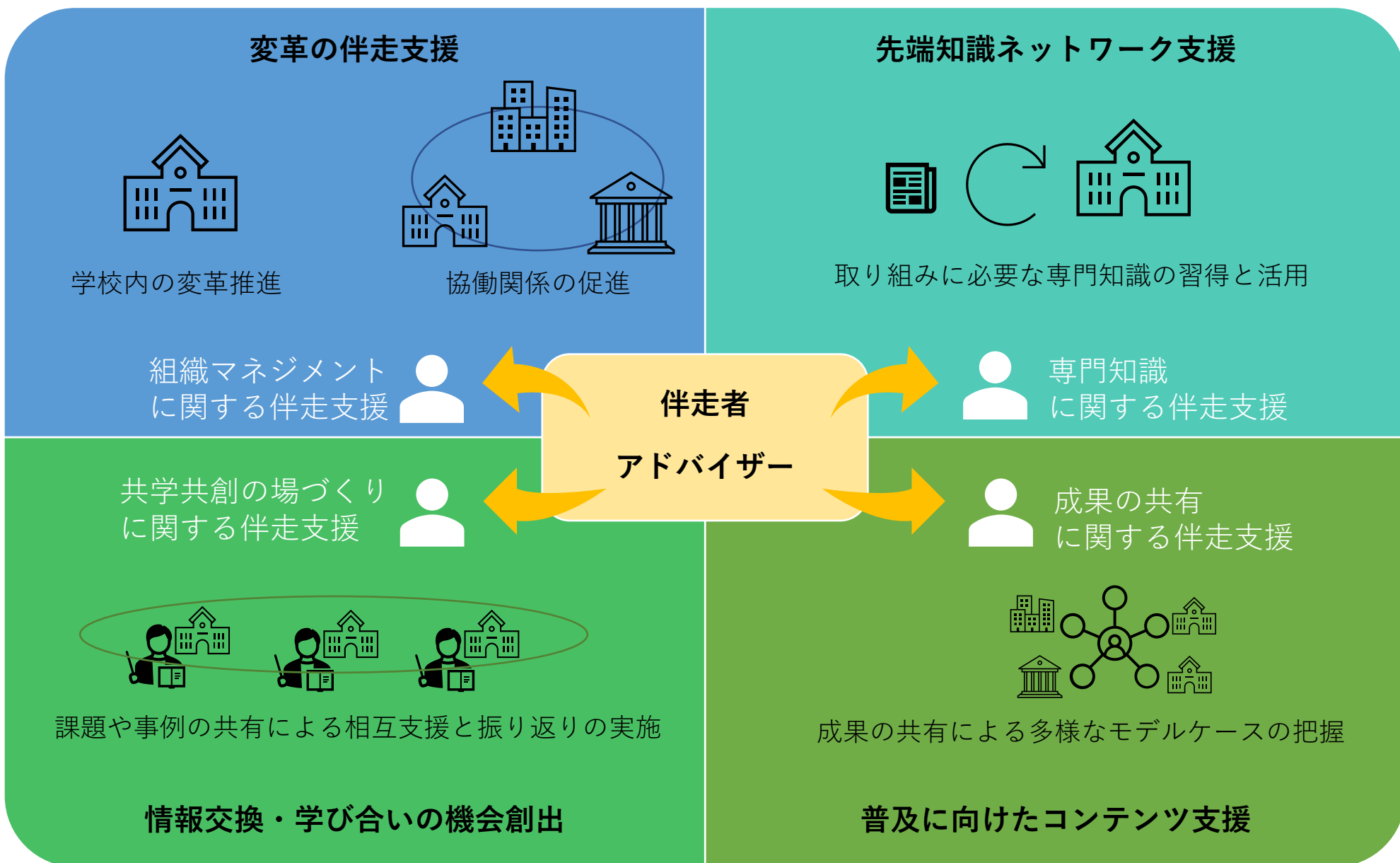
CEOの影響度、貢献度が高く、
リーダーシップがあるかどうか



伴走者が学校現場（伴走対象者）から
信頼され、役に立つ存在だと
認識されるかどうか

伴走支援の実績と成果 全体像

4つの観点から見た伴走支援の内容と成果を全体像としてまとめています。



伴走支援の実績と成果 | 変革の伴走支援

伴走支援に必要な以下の観点ごとに、これまでの実績と成果をまとめています。

教職員とマイスターハイスクールCEO・実務家教員が一体となって改革を推進するために

変革の伴走支援 (伴走者)

同じ課題を持った他の指定校との情報共有、学び合いをするために

情報交換・学び合いの 機会創出

教育機関・行政・産業界で意識統一し、より具体的なビジョンを描くために

協働体制の構築支援

教育課程の刷新に必要な次世代の産業・教育における専門知識・先端情報にアクセスするために

先端知識ネットワーク の支援

全国の専門高校・地域産業への波及効果を出すために

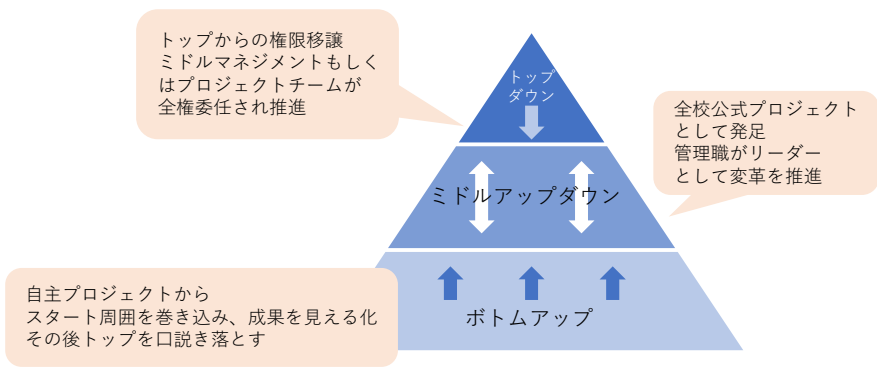
普及に向けた コンテンツ支援

変革の伴走支援 | 変革に向けたプロセスへの関与

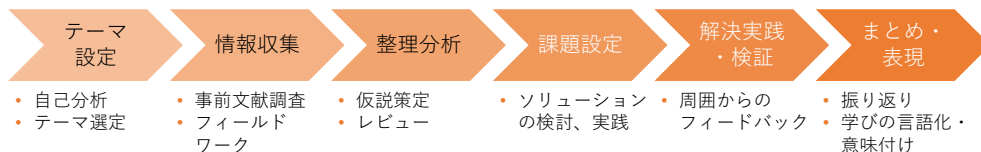
「組織間の連動連携」「学校組織の変革」に求められる考え方やフレームワークを必要とする学校現場へ伴走者経由で提供。

以下はフレームワークの提供例

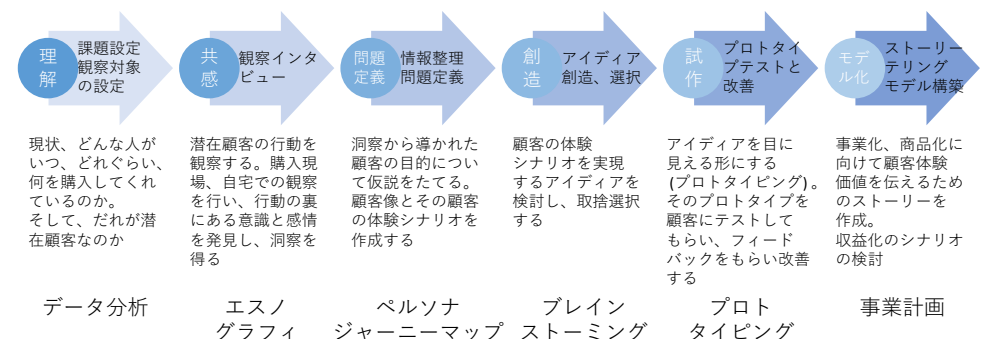
- 企業における巻き込み・組織変革の考え方
 - 巻き込むターゲットをどの層からスタートするのか



探究型授業のプロセス



デザイン思考のプロセス



学校現場からの声

- 本事業の柱がどこなのか迷っていたが、これまでやってきた内容をどのように落とし込むのかについてアドバイスいただいたので、方向性を持つことができた。
- 商工会議所青年部と高校との結びつけ等、学校現場での困りごとに対して、自分ゴトとしてとらえて動いてくれたり、相談に乗ってもらって助かった。かゆいところに手が届く動きをしてくれた。やるべき時に必要なデータ、情報をもたらえて助かった。
- 目標とすべきところが、伴走者に説明してもらったことで、文科省からの文面との間にあったギャップを埋めることができた。CEOとその部分ですり合わせを行い、あるべき姿マスト部分の考え方については、関係者と共有が進んだ。
- 悩んでいることに対して、すぐに対応してもらい、今まで経験したことのないほど寄り添ってもらっていると感じる。とてもありがたい。

変革の伴走支援 | 変革に向けたプロセスへの関与

「組織間の連動連携」「学校組織の変革」に求められる考え方やフレームワークを必要とする学校現場へ伴走者経由で提供。



教育内容、カリキュラムなどへの提案や支援

- 学科ごとで進むマイスター・ハイスクールの取り組みについて、学科横断の在り方や可能性、進め方に関する相談と情報提供
- アイディアソン*の取り組み推進に向けて、相談とフレームワークや進め方等に関する情報提供
- 生徒の主体性の引き出し方、マイスター・ハイスクール事業への生徒の関わり方に関する相談と他の指定校での取り組み事例などの情報提供
- 生徒の資質能力の評価方法に関する相談と情報提供

*「アイデア」と「マラソン」を組み合わせで出来た言葉、限られた時間の中でグループ単位でアイデアを出し合い、ブラッシュアップさせていく取り組み



校内体制構築への提案や支援

- 現場の教職員向け勉強会を開催。探究活動やマイスター・ハイスクールビジョンで定めた資質能力について、現在の企業の組織課題の観点から必要性を理解できるように支援
- 現場の教職員のマイスター・ハイスクール事業への理解促進、巻き込み方、全校プロジェクト化に関する相談と情報提供



学校現場からの声



探究活動の課題設定に教員がどれだけ生徒の自発的な動きをサポートすべきか、待つべきなのか、今年度さらに意見・支援がほしい。

訪問していただいて、外部から見てもらった上で、客観的に良い部分について言及してもらい、自分たちの活動に間違いがなかったと自信につながった。

来年度については、改善が必要な点についてもさらに言及してほしい。



文科省の狙いから見て、率直にフィードバックしてもらおうような、評価者として見てくれる部分があってもよい。

全体の中で相対的な位置付けとかを知れるとよい。

一方で、自分たちの活動を過小評価する傾向にもあるので、できているところについても指摘してくれるとよい。

変革の伴走支援 | 問題解決に向けたプロセスへの関与

「協働体制の構築」「チームビルディング」「目的・目標の設定」などに関するすれ違いや認識違いの問題の解決に向けたプロセスへ関与。



ステークホルダー間の協働、
意思疎通、問題解決支援

- 県教育委員会と学校現場及びCEO間の意見の相違による行き違いを緩和し、合意形成ができるように支援
- 管理機関、ステークホルダー間の思惑の違いとすれ違いを調整し、目的を共有しチームビルディングができるよう支援
- 地域経済団体と学校現場が、学校側からの協力依頼という一方的な関係ではなく、協働関係になれるようなテーマ設定、プロジェクトの組成を支援
- 基礎自治体と学校の連携連動のきっかけ、共通の課題を探るための勉強会の開催など、基礎自治体を巻き込むための支援
- 運営委員会へ出席し、文部科学省が考える本事業のコンセプト、他の指定校の優れた取り組み内容を情報提供することで、地域一体となった活動への気運を高める支援



事業目標との
ギャップを埋める

- 要件にある目的やゴールと実際に初年度に活動できる内容とのギャップを明確にし、中長期で実現できるシナリオづくりの支援
- 3年後のマイスター・ハイスクール事業終了後以降の事業の在り方についての理解を深め、計画の前提と初年度の活動内容を調整していく支援
- モデル校をベースにしてその知見を蓄積・活用することで県内の専門高校への普及・波及効果という考え方に加えて、現場で検討されている普及の在り方について管理機関・文部科学省への情報共有し、理解を深める支援

伴走支援の実績と成果 | 先端知識ネットワークの支援

伴走支援に必要な以下の観点ごとに、これまでの実績と成果をまとめています。

教職員とマイスターハイスクールCEO・実務家教員が一体となって改革を推進するために

**変革の伴走支援
(伴走者)**

同じ課題を持った他の指定校との情報共有、学び合いをするために

**情報交換・学び合いの
機会創出**

教育機関・行政・産業界で意識統一し、より具体的なビジョンを描くために

協働体制の構築支援

教育課程の刷新に必要な次世代の産業・教育における専門知識・先端情報にアクセスするために

**先端知識ネットワーク
の支援**

全国の専門高校・地域産業への波及効果を出すために

**普及に向けた
コンテンツ支援**

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

学校現場が抱える課題に対してアドバイザーによる情報提供を行うと同時に、取り組みに必要な情報を収集できるよう勉強会を開催。

開催内容と成果は
以下の通り

デジタルトランスフォーメーション

学科横断の学びの在り方

高大接続連携

第一回アドバイザー勉強会
「デジタルトランスフォーメーション」

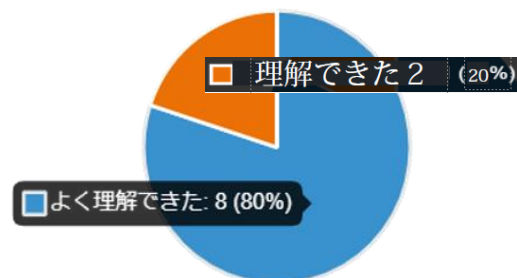
日時 12月2日

講師 小泉さん

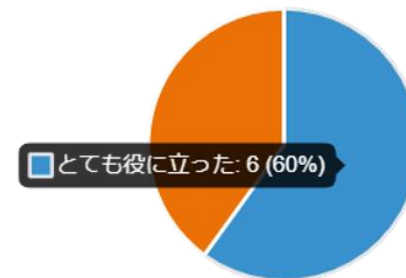
参加高校 6校

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- ・企業内のDXを知れたのが良かった。デジタルはあくまでもインフラでどう使うかを考えなければならない点
- ・デジタル化とDXの違い、オペレーショナルと戦略的の区分は非常に分かりやすかった。
- ・DXとは、どういうものなのか
まずは、生徒に教える前に、自分の分掌での仕事で考えてみるのが良いと思いました。早速実践してみます
- ・本校で今年度実施したMHS企業実習を管内事業所に依頼・展開する上で、説得力ある知識情報をいただいた
- ・本事業を通して、DX時代を生きる生徒へ戦略的問題の解決力を身に付けさせていきたいです
- ・DXとは何なのか、そしてDXが進まない理由についてよく理解できました。学生に身に付けさせたい能力についても再確認できました。現在でもこの能力の育成は図っており、その根拠になるため大変参考になった
- ・目的を明確にしてどういう結果を出したいか、どう活用するかを考えて取り組むこと。普段使いでDXに触れ使っていないと思いつかないころ。身近なDXを連携させ普段使いから面白いアイデアが生まれるのだと思う
- ・これまでよくDXを聞いていたが、最重要ではないと認識していたのでなかなか話を聞く機会がなかったが、今回改めて基本的なことを聞いて、今までの話がすべて整理された
- ・即、紙からデジタルへの移行というイメージであったが、その前に何に役立てるのが設定出来なければ継続的成果に結びつかないということが印象深かった。戦略的問題発見能力を備えた人材の育成が我々に課せられたことと感じた

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

学校現場が抱える課題に対してアドバイザーによる情報提供を行うと同時に、取り組みに必要な情報を収集できるよう勉強会を開催。

開催内容と成果は
以下の通り

デジタルトランスフォーメーション

学科横断の学びの在り方

高大接続連携

第二回アドバイザー勉強会
「学科横断の学びの在り方」

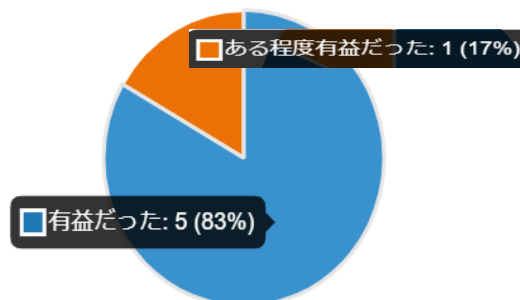
日時 2月2日

講師 上水先生

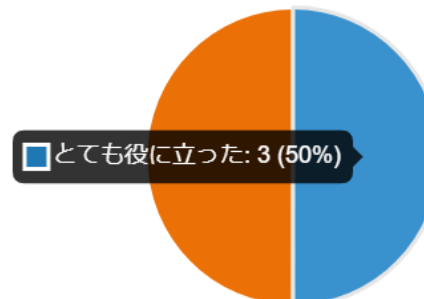
参加高校 5校

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- ・ 学科横断の意味、基本的な考え方をあらためて深く考える機会となった
- ・ 各学校の先生方からの課題や方向性などをお聞きして、やはり本質的にはこれらは同じで取り組みに違いがあるだけだと思いました。
- ・ 各学校の取り組みや問題点を知ることができ参考になりました。
- ・ 学科横断の意義や役割のみならず、具体的な実践例等の協議があればよかったです。
- ・ 専門を探究していくためにも幅広く連携していかなければ、現状の脱却・向上につながらないのではと感じた。
- ・ 横断的な教育とは、別な視点で考えれば、知識教育（創造）ばかりでなく、人とのつながり（共生）、人に同情する感情（敬愛）を横断的に教育することが大事だと感じる

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

学校現場が抱える課題に対してアドバイザーによる情報提供を行うと同時に、取り組みに必要な情報を収集できるよう勉強会を開催。

開催内容と成果は
以下の通り

デジタルトランスフォーメーション

学科横断の学びの在り方

高大接続連携

第三回アドバイザー勉強会
「高大接続連携」

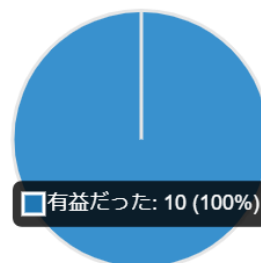
日時 3月2日

講師 中村先生

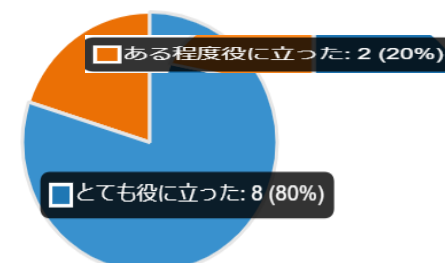
参加高校 5校 + 県教委1か所

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- ・ 高大接続の本質的なところを、背景から現状、課題まで丁寧に網羅的にお話いただくことができ、各校で高大接続や教育改革について議論する際のベースとなるインプットが得られたと思います。一方で、実業系高校の場合は大学入試に関する生徒は少ないため、高校内の教育を充実させるための大学との協力事例や考え方、みたいな部分ももう少し聞きたかった。
- ・ 高大接続・連携については初年度から計画をしておりましたが、まだ準備ができておりませんでした。今回の勉強会の内容を参考に今後の活動に活かしていきたいと思えます。
- ・ 何故高大連携が必要なのか。今後どのような力が必要なのかがわかりました。
- ・ 社会で成長する生徒が具体的に示唆され、その資質に対してアプローチすべき時期が明確に示されたこと。
- ・ 高校から大学にかけて資質能力が伸びないという点は衝撃でした。10年間の追跡調査もっと詳しく知りたいと思いました。
- ・ 生徒たちが学習目的を持つことで自主性が生まれ、課題解決能力がつくという観点が参考になった。
- ・ 高校・大学教育改革の基本や歴史的な変遷について改めて理解を整理することができた。港弁の話も大変興味深かった。
- ・ 大学に入って伸びる生徒と伸びない生徒の違い。外向性、開放性、勤勉性についての説明
- ・ なぜ高大接続・連携なのかの真意がよくわかりました！

先端知識ネットワークの支援 | 専門知識の提供

🗨️ 伴走者経由でアドバイザーに寄せられた質問の一例

- 色々な関係企業の方に教壇に立って協力してもらっている中で、企業の方々向けに授業力を向上させる機会が欲しい
企業人向けの研修を行う予定だが学校で授業を行う民間企業人向けの研修の実施経験やノウハウなどないだろうか
- 高校生の教育的活動で利益を上げ予算を回す体制についてなにか知っていることがあれば教えてほしい
- 生徒の資質能力の評価項目について、進んでいる学校はどんなことをしているのか、項目と測り方について事例が欲しい
- データサイエンス・科学的な考え方やモノの見方を生徒に身に付けさせるためにはどうしたらよいか
- 探究学習のプロセスと生徒の自主性を重視しようとする課題設定に時間がかかり、研究と試行錯誤に時間が取れなくなる
このバランスをどうとらえたらよいか
- マイスター・ハイスクール事業において行政、産業界と学校現場での温度差が存在する。
行政や産業界を巻き込んでいくにはどのようなすすめていくとよいか
- インターンシップの後の振り返りやレポート作成について事例を探している。なにか良い例があればおしえてほしい
- 工業高校における高大連携の事例を教えてください
- 工業高校における課題研究のテーマ例やテーマ設定のやり方について何か参考になるものがあれば提供してほしい
- CEOの勤務体制と待遇について、他の指定校ではどのような形になっているのか事例を教えてください
- 生徒募集において定員割れの状況とならないようにするために、なにか手立てがあれば事例や方法を教えてください
- 次年度より1名加配を行うにあたり、学校のPR、探究や地域学の科目を担当してもらう方(教員免許不要)を1名募集する
契約2年を上限でその先は不透明というなかなか厳しい条件なこともあり、どのようなところにアプローチしたらよいか



学校現場からの声

- 伴走してもらって助かっている
- 勉強会等、様々な機会をいただいてもれなく
やってもらっている
それを現場の教員に落とせていくのが課題
(校内の組織体制、人手が少ないのが原因)

- 伴走者には何度も足を運んでいただき、
親身になってアドバイスいただいた
- 理論的な根拠も明示してもらえるので、
ブレずに進めることができたので感謝している
- カウンセリングのような感じ
- 進むべき方向が可視化できる
- 伴走者あって成り立つ事業だと思う

- マイスター・ハイスクールで実施している探究
活動へのアドバイスや価値づけ理論だてに
対して、さまざまな観点から情報や根拠を提供
してもらえたこと
- 何度も訪問してもらい、会議や生徒の活動に
対して意見をもらえてよかった

伴走支援の実績と成果 | 情報交換・学び合い機会の創出

伴走支援に必要な以下の観点ごとに、これまでの実績と成果をまとめています。

教職員とマイスターハイスクールCEO・実務家教員が一体となって改革を推進するために

**変革の伴走支援
(伴走者)**

同じ課題を持った他の指定校との情報共有、学び合いをするために

**情報交換・学び合いの
機会創出**

教育機関・行政・産業界で意識統一し、より具体的なビジョンを描くために

協働体制の構築支援

教育課程の刷新に必要な次世代の産業・教育における専門知識・先端情報にアクセスするために

**先端知識ネットワーク
の支援**

全国の専門高校・地域産業への波及効果を出すために

**普及に向けた
コンテンツ支援**

情報交換・学び合い機会の創出



全体
顔合わせ会

全体で顔合わせをする場として、指定校がそれぞれ情報交換や学び合いをする機会を設けています。

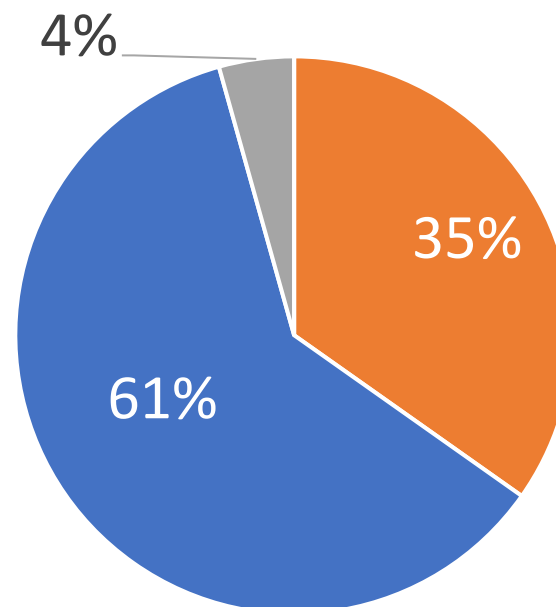


式次第



顔合わせ会アンケート

- 開始のあいさつ
- マイスター・ハイスクール事業の各学校での取り組み紹介
(自慢ネタ／困りごと)9校(+1校)
- グループに分かれて情報交換
(以下、テーマ候補)
 - ①工業高校における資格取得問題
 - ②MHS事業の継続、企業の巻き込み方
 - ③学校内の業務負荷軽減や組織の一体化
 - ④中学校や地域へのアピールについて
- 終わりのあいさつ



■ 有益だった ■ ある程度有益だった
■ あまり有益ではなかった

情報交換・学び合い機会の創出



全体
顔合わせ会



日時

2021年12月7日



参加校

真庭高校、八代工業高校、彦根工業高校、小高産業技術高校、海洋高校、大分東高校、久住高原農業高校、庄原実業高校、北海道静内農業高校、坂井高校(計10校)

- 各学校が繋がっていくことは非常に有益だと思います。このような取組を引き続きお願いいたします。
- 他校の取組が分かりました。各学校単位で情報の共有をしていきたいです。
- これまでにない文科省の事業なので、指定校全県で前向きに取り組んでいけるよう、今後もこのような機会があればありがたいです。
- 皆さんも多くの課題を持って取り組んでおられることが分かっただけでもホッとした。
- 各校の取り組みの特徴がわかった。初回はそれでOKと思います。
- 各校の取り組みの様子を聞くことができ、有益であったともいます。このような機会がもっと早くにあったらと思いました。ただ、時間が短かったかと思います。
- 各学校の取り組みが大変参考になった。
- 他県の進捗状況等、困り感等把握することができた。
- 情報交換は定期的に行うのは賛成です。本校では彦根工業高校さんと情報交換を行いました。2、3校での情報交換のほうがより意見や質問ができるように思います。
- 各指定校の状況を知ることができて、大変有意義でした。
- 学校を取り巻く各種条件が異なるので、他校事例は「知りたい情報」が鮮明でない限り長時間かけて聞くものでもないと思った。むしろ、他校事例についてピンポイントで必要な情報をいただける伴走者との関係を密にしたほうが有益と思う。
- 各校ともマイスター事業の目的に向かっての具体的な取り組みに違いあり、それらを聞けるよい機会であった。
- 自由に話せる時間は、あと1時間は必要だった。せっかくの機会なので時間を確保していただきたい。

情報交換・学び合い機会の創出

個別情報交換会


個別に指定校同士を繋げ、情報交換ならびに相談ができる場を設けています。

- 各指定校同士の情報交換会を伴走者が声掛けする形で実施。
- 進捗状況に加えて、実際に抱えている問題やその対処方法、今後の課題などについてもざっくばらんな情報交換を実現。
- 伴走者を經由せず、顔合わせ会にて連絡先を交換し、個別に情報交換を行う学校も多数。


- ✓ 近隣地区の学校同士
- ✓ 同じ学科を持つ学校同士
- ✓ 共通課題やテーマを持つ学校同士



学校現場からの声

 要所要所で早めに足りていない点や、他校の事例などをいただいて、反省し修正することができた。提案いただいても、すべてを実現できていないのが申し訳ない。

他の学校との連携をさせてもらえて窓口を開いてもらって今もやり取りをしていて助かっている。産業実務家教員として、他校の情報を知ること、客観的に見る機会をもらえた。

 他の指定校との場をセッティングしてもらったり、自分たちで議論をしている時に他校の事例を聞かせてもらったりと、参考とさせていただきありがたかった。10年20年後まで見据えた展望はできていないが、昨年度やったことを今年度ベースにして活動予定なので、少し先を見据えた情報を引き続きいただきたい。

伴走支援の実績と成果 | 普及に向けたコンテンツ支援

伴走支援に必要な以下の観点ごとに、これまでの実績と成果をまとめています。

教職員とマイスターハイスクールCEO・実務家教員が一体となって改革を推進するために

**変革の伴走支援
(伴走者)**

同じ課題を持った他の指定校との情報共有、学び合いをするために

**情報交換・学び合いの
機会創出**

教育機関・行政・産業界で意識統一し、より具体的なビジョンを描くために

協働体制の構築支援

教育課程の刷新に必要な次世代の産業・教育における専門知識・先端情報にアクセスするために

**先端知識ネットワーク
の支援**

全国の専門高校・地域産業への波及効果を出すために

**普及に向けた
コンテンツ支援**

普及に向けたコンテンツ支援

中間成果報告会をオンラインにて開催。実施内容・今年度の成果と課題、全体の進捗度合いなどについて共有。

中間成果報告会	日時	2022年1月26日 13時半～15時半
	参加者	12か所13校の学校関係者、管理機関 約200名

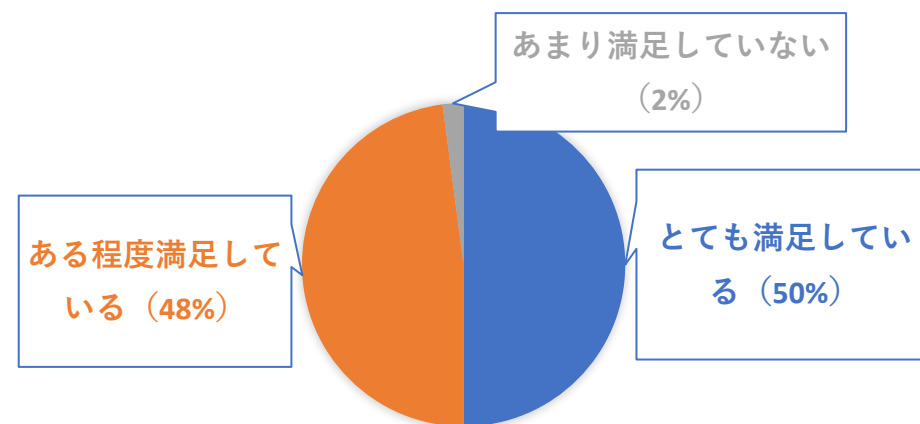
式次第

- 1月27日13時半～15時半にオンラインにて指定校による中間成果報告会を開催
- 参加者は約200人弱
- 管理職、教員、CEO、産業実務家教員、県教委、自治体、地域産業界から出席
- 12管理機関から発表を3グループに分けて実施
- グループ内での司会進行ならびに質疑応答、企画評価委員の方々からの講評
- 会の終了時には参加者へアンケートを実施
- 他の学校への質問事項や依頼事項を受付け、その後、高校同士繋ぐ接点づくりを実施
- 次年度に向けた要望や改善事項などについても意見聴取



顔合わせ会アンケート

本日の中間成果報告会の運営について



普及に向けたコンテンツ支援



中間成果報告会



日時

2022年1月26日



参加校

12か所13校

- 全国のマイスターハイスクール事業の取組を聴き、本事業の目的や意義を再確認することができた
- 他校の取組が分かり参考になったこと、企画評価委員のみなさまからの講評や今後の課題を頂けた
- 様々な学校の取組みや経過がわかり非常に参考になった
- 他校の事業内容を知ることができ、今後の参考となった。また、評価会議委員の皆様からご講評をいただき、来年度以降の計画に役立てたい
- 他校の取組みや工夫、課題などを知ることができた。講評を参考に今後の展開を検討していくことができるため
- 各実施校の様子を知ることができ、今後のモチベーションを上げることができました。本校の方向性についてもご教示いただき、大変参考になりました。
- 各校の取組がわかり参考になった。またそれぞれ特徴を出して取り組んでいる事がわかった。また課題も抱えながらの取組であり皆さん暗中模索ということが自分たちだけでないことができた。
- 各学校とも特色のある計画、取組みをされていて、参考になり面白かったです。
- 会の実施に際して、伴走担当よりイメージを持たせていただいた点と、質問および講評をいただくことで、事業進行上のヒントをいただくことができたため。
- 発表は皆さま良く練られたもので、よく分かりました。ただ、私共海洋の分野とはかなりカバーしていることが異なったりしてついていけないこともありました。後ほど、録画された動画などを拝見して理解を深めたいと思います。
- 他の高校の取組みの概要がわかったが対面での発表会ができたらよい。いろいろことについてface to faceで苦労話を聞きたいと思う。
- 指定校の実践内容や成果と課題等が聞けたこと、企画評価会議の方の講評等が聞けたこと

今後の課題と次年度の取り組み

今後の課題と次年度の活動



目的



進め方

1

学校現場における
事業推進に対する
支援

学校現場の課題に合わせた
伴走体制の構築

- 学校のタイプに合わせてプロセスコンサルタント/
コーディネーター/アドバイザー的伴走の組み合わせを設計する
- 学校現場と事業推進に関する課題認識について対話、今年度の
重点テーマをすり合わせていく (ループリックの活用)
- 学校の重点テーマに合わせた伴走支援体制を構築していく
(伴走者のスキル経験×学校の重点テーマに精通するアドバイザーのペア)

2

ビジョン共有、
協業体制への進化、
事業の継続性

自走による事業の継続に向けた
ステークホルダーへの働きかけ

- 本テーマに関する勉強会を開き、出席対象者を学校関係者に加え、
各管理機関に広げていく
- 指定校ごとの個別テーマに関して、それぞれの運営委員会、
事業推進委員会へ働きかけや情報提供を行っていく

3

モデル化、その他
地域への展開

モデル校としての知見のまとめ、
県内の専門高校への展開

- 普及に向けて先行して実践している学校現場について情報収集を行い、
他の指定校への共有を行う
- 普及に向けた枠組みや推進体制を構築すべく、管理機関である
県教育委員会に働きかけ、勉強会などを開催していく

4

専門高校の
ブランディング

指定校の取り組みとその価値を
幅広く発信

- 指定校の取り組みとその価値を動画やパンフレット形式にまとめ、
地域中学校や企業へ伝達していく
- すぐれた指定校の取り組みを全国的に告知していくための情報発信と
PR活動を推進していく